

第4部 総括・考察

第1章 児童生徒調査

※本章では、「第1部 児童生徒調査」に詳述した調査項目から主たる調査項目を抽出し、さらに追加分析を適宜加えつつ、整理を行っている。

1. 家族の世話をしている児童生徒の把握

(1) 家族の世話をしている児童生徒の割合

- 児童生徒調査は、「ヤングケアラー調査」と調査趣旨を明記し、質問の最初で回答意向を確認して実施した。具体的な調査内容として、まず全ての児童生徒に共通する普段の生活状況や悩みの有無を質問し、その後、世話をしている家族の有無、またその状態について詳細に質問を行い、さらに、国による「ヤングケアラーの定義」を示したうえで回答者自身がヤングケアラーに該当すると思うかという自己認識等の質問を行った。
- この調査において、世話をしている家族が「いる」と回答した児童生徒の割合は、小学生 13.1%、中学生 11.5%、高校生(全体)8.5%となっている。また、高校生のうち定時制・通信制は小・中学生や全日制の高校生に比べて回答者数が少ない点に留意は必要であるが、定時制 18.1%・通信制 19.5%と、他に比べて世話をしている家族が「いる」割合が高くなっている。
- 調査時期や調査対象の抽出方法及び調査手法等の前提条件の違いのため厳密な比較は難しいが、本県の調査結果と全国及び他都道府県の調査結果と比較すると、本県は家族の世話をしていると回答した児童生徒の割合が全国の約2倍となっている。ただし、これは「世話」をより幅広く捉え、世話の頻度が不定期なケース等の負担が軽度な層からも一定程度の回答が得られたことによる影響もあると考えられる。
- また、他県の調査結果も様々であり、一概に比較はできないが、家族の世話をしている児童生徒の割合は概ね5%～10%台が多く、本県はやや高い水準であるが概ね近似しているといえる。

図 1 世話をしている家族が「いる」と回答した児童生徒の割合(全国、他県との比較)

	沖縄県	全国調査	他県の調査			
			山梨県	愛知県	栃木県	静岡県
小学生	(n=12,052) 13.1	6.5	5.8	16.7	12.0	5.0
中学生	(n=15,847) 11.5	5.7	8.1	11.3	8.2	5.0
高校生	全体 (n=19,281) 8.5	-	-	-	-	3.9
	全日制 (n=18,531) 8.1	4.1	3.5	7.1	5.0	-
	定時制 (n=320) 18.1	8.5	6.8	11.0	10.7	-
	通信制 (n=154) 19.5	11.0	9.7	20.5	4.0	-

※沖縄県の数値には、特別支援学校の小学部・中学部・高等部の回答を含む(以降同様)。
 ※沖縄県の高校生は「全日制」「定時制」「通信制」以外に「その他」(n=21)の区分があるが少数のため掲載していない。
 ※他県の調査結果は、各都道府県の公式ホームページ(令和5年2月末時点)掲載の調査報告書類から引用。

- なお、本県の結果について家族構成別、居住地域別にみると、宮古地域の小・中学生で他に比べて割合が低いほかは大きな違いは見られなかった。

図 2 世話をしている家族が「いる」と回答した児童生徒の割合(沖縄県 地域別・家族構成別)

		小学生		中学生		高校生	
全体		(n=12,052) 13.1	(n=15,847) 11.5	(n=19,281) 8.5			
家族構成	二世帯世帯(ふたり親家庭)	(n=7,986) 12.8	(n=10,526) 10.4	(n=11,748) 7.3			
	三世帯世帯	(n=1,843) 15.9	(n=2,789) 13.4	(n=3,672) 10.2			
	ひとり親家庭	(n=2,156) 11.7	(n=2,310) 13.8	(n=3,491) 9.8			
居住地域	那覇	(n=2,661) 14.1	(n=4,274) 12.4	(n=3,761) 8.8			
	北部	(n=1,322) 16.0	(n=1,007) 12.6	(n=1,439) 10.2			
	中部	(n=3,678) 12.0	(n=6,866) 11.4	(n=8,035) 7.7			
	南部	(n=2,644) 13.0	(n=2,240) 9.2	(n=4,071) 7.2			
	宮古	(n=271) 4.4	(n=691) 7.7	(n=376) 11.2			
	八重山	(n=387) 13.4	(n=337) 11.0	(n=602) 9.5			

2. 家族の世話の状況

(1) 世話の対象

- 家族の世話をしている児童生徒が世話をを行っている対象(世話を必要としている家族)は、「母親」が5割前後、「きょうだい」が3～5割程度、「父親」が3割前後となっている。
- 全国調査結果とは一部選択肢が異なるため厳密な比較はできないが、全国に比べて「父母」の割合が概ね2倍と高く、「きょうだい」の割合が低くなっている。

図 3 世話を必要としている家族(複数回答)

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他	無回答
小学生(n=1,584)	47.1	33.4	17.2	10.0	48.5	4.0	12.1
中学生(n=1,830)	52.7	35.1	14.5	7.9	39.8	3.8	13.7
高校生(n=1,630)	50.6	28.8	14.5	7.6	35.7	5.0	12.8

<参考>全国調査結果

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他	無回答
小学生(n=631)	19.8	13.2	10.3	5.5	71.0	1.9	5.7
中学生(n=319)	23.5		14.7		61.8	3.8	9.4
高校生(n=307)	29.6		22.5		44.3	5.5	8.8

※全国の高校生は「全日制」の結果を引用、選択肢表記は比較のために本県調査と合わせている場合がある(以降同様)。
小学生と中学生・高校生は一部選択肢が異なる

(2) 世話の状況(内容、頻度や時間等)

① 世話の内容

- 世話の対象に関する質問の後に、世話の内容や頻度、時間等の具体的な状況に関する質問を行った。前述のとおり、今回の調査では、全国調査では把握できなかった、世話の頻度が不定期なケース等の負担が軽度な層からも一定程度の回答が得られているため、世話の負担が重いヤングケアラーを想定した世話内容や頻度、時間等の詳細の質問に明確に回答できない人がいた点にも留意して調査結果を見ていくことが必要である。
- 世話の内容では「家事」の割合が3～5割前後と最も高く、次いで「見守り」や「きょうだいのお世話や送り迎え」が1～2割台、「買い物や散歩」への同行が1割台で続いている。

図 4 世話の内容(複数回答)

	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいのお世話や送り迎え	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩と一緒にいく	病院へ一緒にいく	話を聞く	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
小学生(n=1,584)	35.0	20.1	11.9	16.1	3.0	15.6	26.6	1.6	3.5	2.8	4.7	29.7
中学生(n=1,830)	45.3	16.8	4.9	13.8	2.0	6.9	22.3	1.1	1.8	1.7	3.6	34.7
高校生(n=1,630)	49.9	14.2	5.8	14.0	3.4	10.3	20.4	1.3	2.9	2.9	4.5	30.7

② 世話の頻度と時間

- 世話の頻度は、小・中・高校生に共通して「ほぼ毎日」の割合が3割前後と最も高く、これに「週3～5日」をあわせると、家族の世話を週3日以上行っている層が4～5割を占めている。また、比率の多寡の厳密な比較はできないものの、世話をしている児童生徒の中では「ほぼ毎日」の割合が最も高い点は全国調査と共通している。
- 一日あたりの世話時間(平日)は「3時間未満」が3～4割強、「3時間以上」が1～2割程度であった。また、平均時間数は2～3時間で学年が上がるほど高く、高校生は3.1時間/日(平日)であった。なお、「7時間以上」と平日に長時間の世話を行っている児童生徒も3%程度いることが把握された。
- また、本県独自の質問として、一日あたりの世話時間(休日)についてもたずねたところ、休日は平日に比べて世話時間が長い層の割合が高く、「3時間以上」が2～3割程度、うち「7時間以上」が1割程度おり、平均時間数は4時間を超えている。

図 5 世話をしている頻度(複数回答)

	ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日	その他	無回答	週3日以上計
小学生(n=1,584)	32.6	16.5	12.9	6.2	3.0	28.8	49.1
中学生(n=1,830)	28.9	16.0	9.8	6.4	3.0	36.0	44.9
高校生(n=1,630)	28.7	15.1	11.3	6.7	4.2	34.0	43.8

<参考>全国調査結果

	ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日	その他	無回答	週3日以上計
小学生(n=631)	52.9	16.0	14.4	5.5	1.4	9.7	68.9
中学生(n=319)	45.1	17.9	14.4	4.7	4.1	13.8	63.0
高校生(n=307)	47.6	16.9	10.4	6.8	2.0	13.8	64.5

図 6 1日当たりの世話に費やす時間(平日)

	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	無回答	3時間以上計	平均(時間)
小学生(n=1,584)	40.1	16.8	3.3	39.8	20.1	2.47時間
中学生(n=1,830)	35.7	12.0	3.8	48.5	15.8	2.71時間
高校生(n=1,630)	29.8	13.8	3.6	52.8	17.4	3.08時間

※平均時間数は無回答を除いた人数で算出

<参考>全国調査結果

	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	無回答	3時間以上計
小学生(n=631)	52.4	22.8	7.1	17.6	29.9
中学生(n=319)	42.0	21.9	11.6	24.5	33.5
高校生(n=307)	35.8	24.4	10.7	29.0	35.1

図 7 1日当たりの世話に費やす時間(休日)

	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	無回答	3時間以上計	平均(時間)
小学生(n=1,584)	26.8	23.0	12.4	37.8	35.4	4.55時間
中学生(n=1,830)	26.7	16.1	9.5	47.8	25.6	4.34時間
高校生(n=1,630)	24.0	15.9	8.5	51.5	24.4	4.29時間

※平均時間数は無回答を除いた人数で算出

③ 世話の分担(一緒にしている人の有無)

- 世話を自分と一緒にしている人は「母親」が4割前後、「きょうだい」が3割前後、「父親」が2～3割程度の順であった。
- 一方、「自分のみ」で世話を担っている児童生徒も1割強おり、この比率は全国調査と同程度であった。

図 8 世話を一緒にしている人(複数回答)

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス	その他	無回答
小学生(n=1,584)	45.3	32.3	11.0	7.1	32.6	2.5	11.7	1.0	2.1	30.4
中学生(n=1,830)	39.3	25.5	7.9	4.4	30.0	2.1	11.3	1.7	2.6	36.3
高校生(n=1,630)	37.5	21.8	5.0	4.0	27.1	2.9	12.1	2.8	4.8	33.6

(%)

<参考> 全国調査結果

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス	その他	無回答
小学生(n=631)	64.2	47.1	11.6	5.4	36.0	3.2	10.6	2.4	0.5	11.1
中学生(n=319)	58.3	35.7	16.0	6.9	35.7	5.0	9.1	6.3	1.9	14.1
高校生(n=307)	52.1	28.3	11.4	4.9	34.5	7.2	11.4	7.2	1.3	16.3

(%)

- 上記①～③に示した世話の頻度、世話に費やしている時間(平日)、世話を一緒にしている人の状況について、家族構成別に主要項目を整理した結果は下表のとおりであり、特筆すべき大きな違いは見られないものの、三世帯世帯、ひとり親家庭の高校生は他に比べて平日の世話時間がやや長く3時間を超えている。

図 9 家族構成別 世話の頻度、時間、一緒にしている人の状況(抜粋)

		世話の頻度		世話時間(平日)	一緒に世話をしている人
		週3日以上計	ほぼ毎日	平均(時間)	自分のみ
小学生	二世帯世帯(ふたり親家庭) (n=1,022)	49.9	33.2	2.4時間	12.8
	三世帯世帯 (n=293)	52.3	32.8	2.7時間	9.6
	ひとり親家庭 (n=253)	43.0	30.4	2.6時間	8.7
中学生	二世帯世帯(ふたり親世帯) (n=1,097)	44.1	28.5	2.7時間	11.1
	三世帯世帯 (n=375)	46.4	31.2	2.6時間	10.1
	ひとり親家庭 (n=318)	46.6	27.4	2.9時間	13.5
高校生	二世帯世帯(ふたり親世帯) (n=856)	43.2	27.3	2.9時間	10.7
	三世帯世帯 (n=376)	45.0	29.8	3.4時間	14.6
	ひとり親家庭 (n=341)	45.8	31.7	3.2時間	13.5

(%)

※平均時間数は無回答を除いた人数で算出

3. 家族の世話による影響

(1) 家族の世話による学校生活等への影響(実態)

- 家族の世話をすることによる影響を把握するため、世話をしている児童生徒と、していない児童生徒で、健康状態や日常生活の状況、悩みごと、また中高生については将来の進路希望について比較を行った。
- また、家族の世話をしている児童生徒の中でも、世話の負担の重さによる違いを把握するため、負担度の指標として「平日の世話に費やす時間」に着目し、比較分析を行った。

① 健康状態や学校の出席・遅刻早退の状況

- 家族の世話をしている児童生徒は、していない児童生徒に比べて、健康状態、学校の出席や遅刻早退に課題を抱える割合が高い。特に学校を欠席する割合(よくする+たまにする)は世話をしている児童生徒では3~4割を占め、世話をしていない児童生徒を10ポイント程度上回っている。
- また、世話時間が長いほど課題を抱える割合が高まり、平日7時間以上の長時間の世話を担っている児童生徒、特に高校生で顕著に高い。

図 10 健康状態、学校の出席状況、遅刻早退状況

健康状態	小学生						中学生			高校生					
	世話をしている家族の有無	世話時間(平日)	よくない 計			世話をしている家族の有無	世話時間(平日)	よくない 計			世話をしている家族の有無	世話時間(平日)	よくない 計		
			あまりよくない	よくない	計			あまりよくない	よくない	計			あまりよくない	よくない	計
児童生徒全体			2.7	2.3	0.4			3.7	3.1	0.6			4.2	3.6	0.6
いない			2.6	2.3	0.3			3.5	3.0	0.5			3.8	3.3	0.5
いる			4.2	3.6	0.6			5.2	4.5	0.7			8.2	6.1	2.1
世話をしている家族の有無			2.9	2.7	0.2			4.4	4.1	0.3			8.1	5.6	2.5
世話時間(平日)			4.9	4.5	0.4			8.2	7.7	0.5			10.7	8.9	1.8
			13.5	5.8	7.7			8.7	8.7	-			25.4	16.9	8.5

学校の出席状況	小学生						中学生			高校生					
	世話をしている家族の有無	世話時間(平日)	欠席する 計			世話をしている家族の有無	世話時間(平日)	欠席する 計			世話をしている家族の有無	世話時間(平日)	欠席する 計		
			欠席する	たまに	よく			欠席する	たまに	よく			欠席する	たまに	よく
児童生徒全体			22.9	19.3	3.6			22.8	18.2	4.6			29.7	23.5	6.2
いない			22.9	19.5	3.4			21.7	17.4	4.3			28.6	22.9	5.7
いる			33.4	27.0	6.4			31.2	23.9	7.3			40.5	29.2	11.3
世話をしている家族の有無			35.7	29.0	6.7			31.0	24.3	6.7			36.1	26.0	10.1
世話時間(平日)			35.6	27.0	8.6			44.5	34.5	10.0			48.5	33.8	14.7
			40.4	32.7	7.7			46.3	33.3	13.0			54.2	37.3	16.9

学校の遅刻早退状況	小学生						中学生			高校生					
	世話をしている家族の有無	世話時間(平日)	遅刻早退する 計			世話をしている家族の有無	世話時間(平日)	遅刻早退する 計			世話をしている家族の有無	世話時間(平日)	遅刻早退する 計		
			遅刻早退する	たまに	よく			遅刻早退する	たまに	よく			遅刻早退する	たまに	よく
児童生徒全体			18.2	15.0	3.2			13.9	12.1	1.8			18.3	16.1	2.2
いない			18.1	15.0	3.1			13.2	11.5	1.7			17.4	15.4	2.0
いる			26.0	20.8	5.2			19.6	16.9	2.7			27.8	23.4	4.4
世話をしている家族の有無			27.1	21.6	5.5			17.9	16.5	1.4			21.7	18.4	3.3
世話時間(平日)			27.3	21.7	5.6			23.6	19.5	4.1			34.7	29.8	4.9
			34.6	25.0	9.6			37.6	27.5	10.1			56.0	45.8	10.2

※世話をしている家族が「いる」の回答のうち、世話時間(平日)の設定については「無回答」を掲載していない(以降同様)。

② 学校生活等であてはまること

- ふだんの学校生活等についても、家族の世話をしている児童生徒は、していない児童生徒に比べて課題を抱える割合が高く、家族の世話をしている児童生徒は授業中の居眠りをはじめとした気がかりな状況10項目のいずれかにあてはまると回答した人の割合が5～6割となっており、世話をしていない児童生徒を10ポイント以上上回っている。
- また、世話時間との関係でみると、中高生では世話時間が3時間以上の人は、いずれかにあてはまる割合が7割以上を占めている。

図 11 ふだんの学校生活等であてはまること(複数回答)

		小学生														
		あてはまること「あり」計											特にな い	無回答		
			授業中 に寝てし まうこと が多い	宿題が できてい ないこと が多い	持ち物 の忘れ 物が多い	習い事 を休むこ とが多い	提出物 を出す のが遅 れること が多い	修学旅 行など の宿泊 行事を 欠席する	保健室 で過ごす ことが多い	学校で は一人 で過ごす ことが多い	友達と 遊んだり、 おしゃべ りする時 間が少ない	家のこと が気にな って落ち 着けない ことが多い				
児童生徒全体		(n=12,052)	39.7	6.4	14.2	21.3	3.6	21.5	0.7	0.9	4.2	4.5	2.8	52.5	7.8	
世話をし ている家 族の有無	いない	(n=9,663)	40.1	6.3	13.8	21.3	3.5	21.5	0.6	0.8	4.2	4.3	2.4	57.9	2.0	
	いる	(n=1,584)	54.3	9.6	22.2	30.1	5.8	30.1	1.5	1.8	6.3	7.8	6.8	42.7	3.0	
		世話時間 (平日)	(n=639)	55.4	9.7	22.5	32.4	5.9	30.2	1.3	1.9	7.8	8.6	7.0	44.1	0.5
		3時間未満 3～7時間未満 7時間以上	(n=267) (n=52)	54.3 48.1	11.2 15.4	20.2 30.8	30.7 28.8	7.9 11.5	27.7 28.8	3.0 5.8	0.4 5.8	4.5 9.6	10.1 13.5	8.2 7.7	44.6 50.0	1.1 1.9

※あてはまること「あり」計 は全体(100%)-"特にな"「無回答」を除いた比率

		中学生														
		あてはまること「あり」計											特にな い	無回答		
			授業中 に寝てし まうこと が多い	宿題が できてい ないこと が多い	持ち物 の忘れ 物が多い	習い事 を休むこ とが多い	提出物 を出す のが遅 れること が多い	修学旅 行など の宿泊 行事を 欠席する	保健室 で過ごす ことが多い	学校で は一人 で過ごす ことが多い	友達と 遊んだり、 おしゃべ りする時 間が少ない	家のこと が気にな って落ち 着けない ことが多い				
児童生徒全体		(n=15,847)	46.7	19.6	22.5	15.8	6.8	24.9	1.1	1.0	4.4	4.1	2.2	0.5	52.8	
世話をし ている家 族の有無	いない	(n=14,014)	45.0	18.8	21.5	15.0	6.3	24.1	1.0	0.8	4.2	3.9	1.8	0.5	54.5	
	いる	(n=1,830)	59.5	25.7	29.6	21.7	10.3	31.7	1.9	2.7	5.4	5.5	5.7	0.3	40.2	
		世話時間 (平日)	(n=654)	56.4	23.5	28.9	20.0	9.2	29.4	1.2	1.5	4.9	5.2	4.0	0.5	43.1
		3時間未満 3～7時間未満 7時間以上	(n=220) (n=69)	70.4 72.5	29.5 37.7	39.1 34.8	24.1 24.6	13.6 20.3	43.6 44.9	1.8 4.3	3.6 11.6	9.1 10.1	8.6 10.1	9.5 18.8	0.5 0.0	29.1 27.5

※あてはまること「あり」計 は全体(100%)-"特にな"「無回答」を除いた比率

		高校生														
		あてはまること「あり」計											特にな い	無回答		
			授業中 に寝てし まうこと が多い	宿題が できてい ないこと が多い	持ち物 の忘れ 物が多い	習い事 を休むこ とが多い	提出物 を出す のが遅 れること が多い	修学旅 行など の宿泊 行事を 欠席する	保健室 で過ごす ことが多い	学校で は一人 で過ごす ことが多い	友達と 遊んだり、 おしゃべ りする時 間が少ない	家のこと が気にな って落ち 着けない ことが多い				
児童生徒全体		(n=19,281)	49.2	31.8	19.0	12.0	4.1	17.1	1.6	1.2	4.8	5.0	1.9	1.0	49.8	
世話をし ている家 族の有無	いない	(n=17,639)	48.2	31.2	18.6	11.6	3.9	16.8	1.5	1.0	4.6	4.8	1.5	1.0	50.8	
	いる	(n=1,630)	60.6	38.1	24.1	16.7	6.2	21.0	2.8	2.5	7.1	7.5	6.2	0.7	38.7	
		世話時間 (平日)	(n=485)	60.6	37.9	22.1	17.9	4.9	20.2	1.9	1.9	7.2	7.6	4.7	0.8	38.6
		3時間未満 3～7時間未満 7時間以上	(n=225) (n=59)	70.3 74.6	42.2 44.1	28.9 27.1	21.3 22.0	8.4 13.6	24.0 32.2	3.1 10.2	5.3 6.8	8.4 15.3	9.8 20.3	12.0 27.1	0.4 0.0	29.3 25.4

※あてはまること「あり」計 は全体(100%)-"特にな"「無回答」を除いた比率

③ 現在の悩みごと

- 現在の悩みごとについても、前述の学校生活等であてはまることと同様に、家族の世話をしている児童生徒は、していない児童生徒に比べて友人関係や学業、家族等に関する悩みごとを抱える割合が高く、悩みごとの項目のいずれかにあてはまると回答した人の割合が小学生で4割、中高生で6割となっており、世話をしていない児童生徒を10ポイント以上上回っている。
- また、世話時間との関係でみると、高校生では世話時間が3時間以上の人はいずれかにあてはまる割合が7割以上を占めている。

図 12 現在の悩みごと(複数回答)

		小学生 (%)												
		悩み「あり」計											特 に な い	無 回 答
		友 達 の こ と	学 校 の 成 績 の こ と	習 い 事 の こ と	家 族 の こ と	生 活 や 勉 強 に 必 要 な お 金 の こ と	自 分 の た め に 使 え る 時 間 が 少 な い こ と	そ の 他						
児童生徒全体	(n=12,052)	26.5	10.0	10.5	7.5	5.3	3.9	4.6	3.4				65.9	7.6
いない	(n=9,663)	25.8	10.0	10.0	7.3	4.9	3.6	4.1	3.5				72.5	1.7
世話をしている家 族の有無	(n=1,584)	41.7	14.5	17.2	12.1	9.7	7.6	10.1	3.9				55.5	2.8
世話時間	(n=639)	41.7	14.1	18.8	11.6	11.1	8.6	9.7	4.2				57.4	0.9
(平日)	(n=267)	41.9	15.4	12.0	11.6	10.5	7.1	13.9	3.4				56.6	1.5
7時間以上	(n=52)	42.3	19.2	25.0	11.5	13.5	9.6	15.4	3.8				57.7	0.0

※悩み「あり」計 は全体(100%)-"特にない"/"無回答"を除いた比率

		中学生 (%)														
		悩み「あり」計											特 に な い	無 回 答		
		友 人 と の 関 係 の こ と	学 業 成 績 の こ と	進 路 の こ と	部 活 動 の こ と	学 費 な ど 学 校 生 活 に 必 要 な お 金 の こ と	塾 や 習 い 事 の こ と (行 き た く て も 行 け な い な ど)	家 庭 の 経 済 的 状 況 の こ と	自 分 と 家 族 と の 関 係 の こ と	家 族 内 の 人 間 関 係 の こ と (両 親 の 不 仲 な ど)	病 気 や 障 が い の あ る 家 族 の こ と	自 分 の た め に 使 え る 時 間 の こ と			そ の 他	
児童生徒全体	(n=15,847)	50.2	11.9	30.1	34.2	9.6	3.7	3.6	4.0	4.7	3.8	1.1	6.6	1.9	48.0	1.8
いない	(n=14,014)	48.9	11.5	29.6	33.5	9.4	3.3	3.3	3.5	4.3	3.4	0.9	6.2	1.8	49.3	1.8
世話をしている家 族の有無	(n=1,830)	60.0	14.3	34.1	39.5	11.5	6.7	6.2	7.4	8.0	6.8	3.2	10.1	2.5	38.0	2.0
世話時間	(n=654)	61.1	13.0	34.3	40.7	11.8	6.6	5.5	8.0	8.1	6.7	3.2	9.8	3.4	37.5	1.4
(平日)	(n=220)	70.0	19.1	40.9	47.3	13.2	9.5	9.1	12.3	15.0	12.7	6.8	18.6	3.6	29.1	0.9
7時間以上	(n=69)	63.8	24.6	42.0	42.0	18.8	14.5	15.9	14.5	18.8	14.5	4.3	17.4	8.7	33.3	2.9

※悩み「あり」計 は全体(100%)-"特にない"/"無回答"を除いた比率

		高校生 (%)														
		悩み「あり」計											特 に な い	無 回 答		
		友 人 と の 関 係 の こ と	学 業 成 績 の こ と	進 路 の こ と	部 活 動 の こ と	学 費 な ど 学 校 生 活 に 必 要 な お 金 の こ と	塾 や 習 い 事 の こ と (行 き た く て も 行 け な い な ど)	家 庭 の 経 済 的 状 況 の こ と	自 分 と 家 族 と の 関 係 の こ と	家 族 内 の 人 間 関 係 の こ と (両 親 の 不 仲 な ど)	病 気 や 障 が い の あ る 家 族 の こ と	自 分 の た め に 使 え る 時 間 の こ と			そ の 他	
児童生徒全体	(n=19,281)	54.3	9.9	23.9	39.4	6.7	9.6	1.9	6.9	4.2	3.4	1.5	7.3	1.6	43.5	2.2
いない	(n=17,639)	53.4	9.5	23.7	39.2	6.6	9.1	1.8	6.4	3.7	3.0	1.0	6.8	1.5	44.6	2.0
世話をしている家 族の有無	(n=1,630)	63.9	13.9	26.8	41.8	8.0	15.3	3.3	13.0	9.6	8.2	6.1	12.6	3.1	32.3	3.8
世話時間	(n=485)	63.3	13.0	27.6	42.5	10.1	15.1	2.5	12.0	7.2	7.8	7.4	11.3	2.5	34.2	2.5
(平日)	(n=225)	74.3	18.2	33.8	47.1	6.2	27.1	4.0	27.6	18.7	14.7	11.6	20.4	3.1	24.4	1.3
7時間以上	(n=59)	71.2	23.7	33.9	45.8	11.9	28.8	10.2	22.0	32.2	23.7	16.9	33.9	3.4	28.8	0.0

※悩み「あり」計 は全体(100%)-"特にない"/"無回答"を除いた比率

④ 将来の進路希望(中高生)

- 中高生の将来の進路希望では、家族の世話をしている児童生徒は、していない児童生徒に比べて「高校まで」の割合が高く、「大学・大学院まで」の割合が低くなっている。
- 7時間以上の長時間の世話をしている児童生徒に着目すると、中学生では「大学・大学院まで」(34.8%)が希望進路の中で最も割合が高いが、高校生になると「短大・専門学校まで」(47.5%)が最も高くなっており、長時間世話をすることが将来の進路選択に影響している可能性がある。

図 13 中高生の将来の進路希望

		中学生							(%)
		中学校まで	高校まで	短期大学・専門学校まで	大学・大学院まで	その他	分からない	無回答	
児童生徒全体		(n=15,847)	0.6	16.7	19.9	42.3	0.6	19.4	0.5
世話をしている家族の有無									
	いない	(n=14,014)	0.4	15.7	19.8	43.6	0.6	19.5	0.4
	いる	(n=1,830)	1.7	24.8	21.1	32.5	0.5	18.6	0.8
	世話時間(平日)								
	3時間未満	(n=654)	0.8	24.6	22.2	34.4	0.0	17.3	0.8
	3~7時間未満	(n=220)	1.8	20.9	32.7	26.4	0.0	18.2	0.0
	7時間以上	(n=69)	2.9	31.9	10.1	34.8	0.0	20.3	0.0

		高校生							(%)
		中学校まで	高校まで	短期大学・専門学校まで	大学・大学院まで	その他	分からない	無回答	
児童生徒全体		(n=19,281)	0.2	12.0	29.4	43.5	0.7	13.7	0.6
世話をしている家族の有無									
	いない	(n=17,639)	0.1	11.4	29.2	44.6	0.7	13.6	0.5
	いる	(n=1,630)	1.2	18.4	31.9	31.9	0.6	14.9	1.1
	世話時間(平日)								
	3時間未満	(n=485)	0.4	15.7	33.0	36.9	0.4	13.4	0.2
	3~7時間未満	(n=225)	1.8	21.8	39.6	24.9	0.0	12.0	0.0
	7時間以上	(n=59)	1.7	20.3	47.5	16.9	0.0	13.6	0.0

(2) 家族の世話による学校生活等への影響(自覚)

- 家族の世話をしている児童生徒の2割程度は、世話をしているためにやりたいのにできないと自覚していることがあり、その内容として「自分の時間」「睡眠時間」「勉強時間」の不足に関することがそれぞれ6～10%程度と高くなっている。
- また、1～3%程度ではあるが、「学校に行きたくても行けない」「遅刻早退してしまう」「学校行事に参加できない」「進路変更」といった学校生活に深刻な影響がでている児童生徒も存在している。

図 14 世話をしているためにやりたいけどできないこと(複数回答)

	「あり」計											特にない	無回答
	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	学校の行事や活動に参加できない	睡眠が十分にとれない	友人と遊ぶことができない	部活動や習い事ができない、もしくはやめなければならなかった	進学先や就職などの進路の変更を考えないといけない、または進路を変更した	自分の時間が取れない	その他			
小学生(n=1,584)	20.2	1.3	3.0	6.4	1.2	6.6	4.5	0.9	1.3	9.3	1.1	52.5	27.3
中学生(n=1,830)	18.2	1.0	1.6	6.9	1.0	6.3	6.6	1.1	1.3	7.9	0.4	49.6	32.2
高校生(n=1,630)	22.4	1.8	2.8	7.4	1.7	9.0	7.7	1.8	2.8	10.2	0.7	46.1	31.5

※小学生と中学生・高校生は一部選択肢が異なる。「進路～」は中学生・高校生をみの選択肢。 ※「あり」計 は全体(100%) - 「特にない」「無回答」を除いた比率

<参考> 全国調査結果

	経験「あり」計											特にない	無回答
	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分にとれない	友人と遊ぶことができない	部活動や習い事ができない、もしくはやめなければならなかった	進学先や就職などの進路の変更を考えないといけない、または進路を変更した	自分の時間が取れない	その他				
小学生(n=631)	27.4	2.9	3.2	7.8	6.7	10.1	1.0	15.1	1.1	63.9	8.7		
中学生(n=319)	31.3	1.6	2.5	16.0	8.5	8.5	4.7	4.1	20.1	0.3	58.0	10.7	
高校生(n=307)	31.9	1.0	2.9	13.0	11.1	11.4	2.3	5.5	16.6	1.6	52.1	16.0	

※小学生と中学生・高校生は一部選択肢が異なる。「進路～」は中学生・高校生をみの選択肢。 ※「あり」計 は全体(100%) - 「特にない」「無回答」を除いた比率

- 世話時間別にみると、平日の世話時間が3時間以上になると世話をしていることによる影響が出る児童生徒の割合が顕著に高まり、小学生では3割超、中学生では4割超、高校生では5割超とその影響は学年が上がるほど高まっている。

図 15 世話時間別 世話をしているためにやりたいけどできないこと(複数回答)

		小学生													(%)
		「あり」計											特にな い	無回 答	
		学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしま う	宿題をする時間や勉強する時間 が取れない	学校の行事や活動に参加で きない	睡眠が十分に とれない	友人と遊 びることが できない	部活動や 習い事が できない、も しくはやめ なければな らなかつた	進学先や 就職など の進路の 変更を考 えないとい けない、ま たは進路を 変更した	自分の時 間が取れ ない	その他				
全体	(n=1,584)	20.2	1.3	3.0	6.4	1.2	6.6	4.5	0.9	9.3	1.1	52.5	27.3		
世話時間	3時間未満 (n=635)	24.7	1.3	3.8	8.5	1.7	8.3	5.0	0.6	11.2	1.3	69.3	6.0		
	3~7時間未満 (n=266)	36.1	0.8	4.9	11.7	1.5	12.4	7.1	0.8	18.4	1.5	61.3	2.6		
(平日)	7時間以上 (n=52)	34.6	5.8	5.8	15.4	5.8	13.5	11.5	9.6	17.3	3.8	55.8	9.6		

※「あり」計は全体(100%) - 「特にな
い」「無回答」を除いた比率

		中学生													(%)
		「あり」計											特にな い	無回 答	
		学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしま う	宿題をする時間や勉強する時間 が取れない	学校の行事や活動に参加で きない	睡眠が十分に とれない	友人と遊 びることが できない	部活動や 習い事が できない、も しくはやめ なければな らなかつた	進学先や 就職など の進路の 変更を考 えないとい けない、ま たは進路を 変更した	自分の時 間が取れ ない	その他				
全体	(n=1,830)	18.2	1.0	1.6	6.9	1.0	6.3	6.6	1.1	1.3	7.9	0.4	49.6	32.2	
世話時間	3時間未満 (n=654)	22.1	1.1	1.4	8.3	0.9	6.7	7.8	1.2	1.1	9.3	0.5	73.5	4.4	
	3~7時間未満 (n=220)	42.8	0.9	3.6	16.8	0.9	17.3	18.6	2.3	2.7	20.5	-	53.6	3.6	
(平日)	7時間以上 (n=69)	47.9	7.2	10.1	26.1	2.9	26.1	26.1	7.2	8.7	24.6	2.9	50.7	1.4	

※「あり」計は全体(100%) - 「特にな
い」「無回答」を除いた比率

		高校生													(%)
		「あり」計											特にな い	無回 答	
		学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしま う	宿題をする時間や勉強する時間 が取れない	学校の行事や活動に参加で きない	睡眠が十分に とれない	友人と遊 びることが できない	部活動や 習い事が できない、も しくはやめ なければな らなかつた	進学先や 就職など の進路の 変更を考 えないとい けない、ま たは進路を 変更した	自分の時 間が取れ ない	その他				
全体	(n=1,630)	22.4	1.8	2.8	7.4	1.7	9.0	7.7	1.8	2.8	10.2	0.7	46.1	31.5	
世話時間	3時間未満 (n=485)	24.3	2.1	3.9	6.8	1.2	8.7	7.6	0.8	1.9	11.5	0.4	72.8	2.9	
	3~7時間未満 (n=225)	50.2	4.0	5.8	17.3	2.7	22.7	22.2	6.2	5.8	29.3	1.8	47.6	2.2	
(平日)	7時間以上 (n=59)	55.9	1.7	6.8	23.7	8.5	25.4	18.6	3.4	10.2	27.1	-	42.4	1.7	

※「あり」計は全体(100%) - 「特にな
い」「無回答」を除いた比率

- 家族の世話による影響について、ふだんの学校生活等であてはまることとして実際の行動に表れている「実態」と、児童生徒本人が世話による制約を受けていると「自覚」している割合を整理すると下表のとおりとなる。両者で質問の選択肢の表現の違いがあることに留意が必要ではあるものの、学校の出席や遅刻早退、睡眠、宿題については実態と自覚の差が大きく、児童生徒自身が世話による負担や影響を十分に自覚できていない可能性があるかと推察される。

図 16 家族の世話による影響の「実態」と「自覚」の比較

		実態 (ふだんの学校生活等であてはまること)		自覚 (世話をしているためにやりたいけどできないこと)	
学校の出席	小学生	欠席する (たまに+よく)	33.4	学校に行きたくても行けない	1.3
	中学生		31.2		1.0
	高校生		40.5		1.8
学校の遅刻早退	小学生	遅刻早退 (たまに+よく)	26.0	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	3.0
	中学生		19.6		1.6
	高校生		27.8		2.8
睡眠	小学生	授業中に寝てしまうことが多い	9.6	睡眠時間が十分にとれない	6.6
	中学生		25.7		6.3
	高校生		38.1		9.0
宿題	小学生	宿題ができていないことが多い	22.2	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	6.4
	中学生		29.6		6.9
	高校生		24.1		7.4
友達との遊び	小学生	友達と遊んだり、おしゃべりする時間が少ない	7.8	友人と遊ぶことができない	4.5
	中学生		5.5		6.6
	高校生		7.5		7.7

※世話をしている家族がいると回答した児童生徒(小学生:1,584人、中学生:1,830人、高校生:1,630人)に占める割合

(3) 家族の世話に対する負担感

- 家族の世話をしている児童生徒の2割以上が、世話の大変さ(世話で感じるつらさ・ストレス)を実感しており、その内容では「体力面」が1割未満であるのに対して、「精神面」「時間面(時間的な余裕がない)」は1割前後と若干高くなっている。全国調査と厳密な比率の多寡の比較はできないが体力面よりも精神面・時間面の負担感のほうが強いという傾向は同様であった。
- また、本県独自の質問として、世話の大変さを感じている児童生徒に、そのつらさ・ストレスの度合いを「小さい」から「大きい」までの5段階でたずねたところ、中高生では「精神面」「時間面」でつらさ・ストレスを感じる度合いが「中くらい」以上の割合が高くなっている。

図 17 世話の大変さ[世話で感じるつらさ・ストレス](複数回答)

	「実感あり」計			特に感じていない	無回答
	体力面	精神面	時間面		
小学生(n=1,584)	25.2	9.7	11.9	11.6	43.4
中学生(n=1,830)	20.0	6.8	12.4	9.3	44.6
高校生(n=1,630)	23.4	8.7	14.8	11.2	42.2

※「実感あり」計 は全体(100%)-「特にない」「無回答」を除いた比率

<参考>全国調査結果

	「実感あり」計			特に感じていない	無回答
	体力面	精神面	時間面		
小学生(n=631)	33.9	13.9	18.4	14.6	57.4
中学生(n=319)	26.3	6.6	15.0	16.0	60.5
高校生(n=307)	31.9	6.5	19.9	16.9	52.1

※「実感あり」計 は全体(100%)-「特にない」「無回答」を除いた比率

図 18 体力面・精神面・時間面別 世話の大変さ(つらさ・ストレス)の度合い

		小学生					
		小さい	やや小さい	中くらい	やや大きい	大きい	無回答
体力面	(n=154)	17.5	24.0	32.5	8.4	13.0	4.5
精神面	(n=189)	7.9	13.8	31.7	21.2	19.6	5.8
時間面	(n=183)	13.1	23.5	24.6	22.4	13.1	3.3

		中学生					
		小さい	やや小さい	中くらい	やや大きい	大きい	無回答
体力面	(n=125)	10.4	16.0	45.6	16.8	6.4	4.8
精神面	(n=227)	6.6	11.5	29.1	26.4	22.9	3.5
時間面	(n=171)	2.9	18.1	36.3	21.6	15.2	5.8

		高校生					
		小さい	やや小さい	中くらい	やや大きい	大きい	無回答
体力面	(n=141)	5.7	10.6	24.1	12.1	16.3	31.2
精神面	(n=242)	3.7	5.4	21.9	20.7	20.2	28.1
時間面	(n=182)	2.7	6.6	23.1	13.2	21.4	33.0

- 世話時間別にみると、平日の世話時間が3時間を超えると負担感が顕著に増し、3時間以上の層の4～5割が何らかの世話の大変さを実感している。その一方で、7時間以上の長時間の世話を行っている児童生徒でも「特に感じていない」との回答が4～5割強を占めている点には留意が必要である。

図 19 世話時間(平日)別 世話の大変さ(複数回答)

		「実感あり」計			特に感じていない	無回答	
		体力面	精神面	時間面			
(%)							
小学生	3時間未満 (n=635)	33.6	13.1	15.6	14.8	60.9	5.5
	3～7時間未満 (n=266)	42.4	15.0	18.8	19.9	53.8	3.8
	7時間以上 (n=52)	40.4	21.2	26.9	19.2	53.8	5.8
中学生	3時間未満 (n=654)	26.3	8.4	15.4	12.2	70.6	3.1
	3～7時間未満 (n=220)	41.8	14.5	28.2	19.1	55.0	3.2
	7時間以上 (n=69)	50.8	24.6	33.3	23.2	44.9	4.3
高校生	3時間未満 (n=485)	27.6	8.2	15.5	13.0	69.3	3.1
	3～7時間未満 (n=225)	50.2	22.2	34.2	24.0	47.1	2.7
	7時間以上 (n=59)	45.7	22.0	35.6	25.4	49.2	5.1

4. 周囲からの支援の状況と支援ニーズ

(1) 家族の世話に関する相談等の状況

① 家族の世話についての相談等

- 家族の世話について相談した経験が「ある」児童生徒は2割弱のみであり、全国調査結果と同程度であった。また、相談経験がない児童生徒のうち、世話についての悩み等の話を聞いてくれる人が「いる」児童生徒は5割前後であり、3割程度の児童生徒は話を聞いてくれる人も「いない」状況にある。
- 世話時間や世話の大変さの実感別にみると、相談した経験がある児童生徒の割合は平日の世話時間が3時間以上になると高まり、また、体力面・精神面・時間面で何らかの大変さを感じている人ほど高くなっている。
- 一方、(相談経験が無い場合に)世話について話を聞いてくれる人がいる児童生徒の割合は、世話時間では顕著な差はみられないものの、世話の大変さ別にみると大変さを特に感じていない層のほうが話を聞いてくれる人がいる割合が高いという傾向が見られ、話を聞くことが負担感の軽減につながっている可能性があることが推察される。

図 20 家族の世話について相談した経験、世話について話を聞いてくれる人の有無

【世話について相談した経験の有無】

	(%)		
	ある	ない	無回答
小学生(n=1,584)	16.9	71.0	12.1
中学生(n=1,830)	17.5	73.2	9.3
高校生(n=1,630)	19.8	69.0	11.2

【(相談経験が無い場合)世話について話を聞いてくれる人の有無】

	(%)		
	いる	いない	無回答
小学生(n=1,125)	53.7	28.7	17.6
中学生(n=1,339)	45.6	32.9	21.6
高校生(n=1,125)	45.5	31.3	23.2

<参考>全国調査結果

	(%)		
	ある	ない	無回答
小学生(n=631)	17.3	76.1	6.7
中学生(n=319)	21.6	67.7	10.7
高校生(n=307)	23.5	64.2	12.4

<参考>全国調査結果

	(%)		
	いる	いない	無回答
小学生(n=480)	67.7	21.9	10.4
中学生(n=216)	57.9	38.4	3.7
高校生(n=187)	60.9	36.0	3.0

※全国の高校生は「全日制」の結果を引用

図 21 世話時間別・世話の大変さ別 家族の世話について相談した経験、世話について話を聞いてくれる人の有無

【世話について相談した経験の有無】

		小学生			中学生			高校生			(%)			
		ある	ない	無回答	ある	ない	無回答	ある	ない	無回答				
全体		(n=1,584)	16.9	71.0	12.1	(n=1,830)	17.5	73.2	9.3	(n=1,630)	19.8	69.0	11.2	
世話時間(平日)	3時間未満	(n=635)	18.4	78.3	3.3	(n=654)	20.8	77.4	1.8	(n=485)	21.0	76.7	2.3	
	3~7時間未満	(n=266)	27.8	70.7	1.5	(n=220)	29.5	69.5	0.9	(n=225)	34.7	63.1	2.2	
	7時間以上	(n=52)	32.7	65.4	1.9	(n=69)	27.5	71.0	1.4	(n=59)	47.5	50.8	1.7	
世話の大変さ	体力面	(n=154)	31.8	67.5	0.6	(n=125)	36.8	63.2	0.0	(n=141)	48.9	50.4	0.7	
	精神面	(n=189)	40.2	59.8	0.0	(n=227)	40.5	59.5	0.0	(n=242)	46.3	53.3	0.4	
	時間面	(n=183)	35.5	64.5	0.0	(n=171)	36.8	63.2	0.0	(n=182)	41.8	56.6	1.6	
特に感じていない		(n=687)	14.0	85.6	0.4	(n=816)	15.8	83.7	0.5	(n=688)	15.8	84.0	0.1	

【(相談経験が無い場合)世話について話を聞いてくれる人の有無】

		小学生			中学生			高校生			(%)			
		いる	いない	無回答	いる	いない	無回答	いる	いない	無回答				
全体		(n=1,125)	53.7	28.7	17.6	(n=1,339)	45.6	32.9	21.6	(n=1,125)	45.5	31.3	23.2	
世話時間(平日)	3時間未満	(n=497)	65.0	30.6	4.4	(n=506)	61.5	31.6	6.9	(n=372)	63.2	28.8	8.1	
	3~7時間未満	(n=188)	71.3	22.3	6.4	(n=153)	59.5	36.6	3.9	(n=142)	49.3	40.1	10.6	
	7時間以上	(n=34)	61.8	35.3	2.9	(n=49)	57.1	34.7	8.2	(n=30)	53.3	40.0	6.7	
世話の大変さ	体力面	(n=104)	58.7	36.5	4.8	(n=79)	44.3	50.6	5.1	(n=71)	38.0	54.9	7.0	
	精神面	(n=113)	49.6	46.0	4.4	(n=135)	35.6	54.8	9.6	(n=129)	29.5	57.4	13.2	
	時間面	(n=118)	51.7	43.2	5.1	(n=108)	40.7	49.1	10.2	(n=103)	43.7	46.6	9.7	
特に感じていない		(n=588)	66.8	25.7	7.5	(n=683)	61.1	29.4	9.5	(n=578)	60.2	28.7	11.1	

② 相談しない理由

- 世話について相談した経験がない理由では「相談するほどの悩みではない」の割合が4～6割程度と最も高いが、「相談しても状況が変わるとは思わない」が1割程度、中高生では「相談したいと思わない」が1割強となっている。
- 世話時間別にみると、中高生では、7時間以上の長時間世話をを行っている人は、相談意向はあるものの「誰に相談するのがよいかわからない」や「相談できる人が身近にいない」「家族のこのため話しにくい」等の理由で相談できずにいる割合がそれぞれ1～2割台となっている。

図 22 家族の世話について相談した経験がない理由(複数回答)

	誰かに相談するほどの悩みではない	家族以外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	誰かに相談したいが、相談できる人が身近にいない	誰かに相談したいが、家族のこのため話しにくい	家族のことを知られたくない	家族に対して偏見をもたれたくない	誰かに相談したいが、家族から他人に相談しないように言われている	誰かに相談したいが、家族に対していやな思いを持たれたくない	相談したいと思わない	相談しても状況が変わるとは思わない	その他	無回答
小学生(n=1,125)	57.1	4.9	3.6	4.5	3.1	3.6	0.6	5.4	16.7	11.0	9.7	19.9	
中学生(n=1,339)	46.9	7.6	4.6	1.9	2.8	3.1	3.6	1.0	2.7	8.8	8.4	26.4	
高校生(n=1,125)	46.7	6.9	4.6	2.2	3.3	3.5	3.7	1.0	2.2	9.7	8.3	24.7	

図 23 世話時間別・世話の大変さ別 家族の世話について相談した経験がない理由(複数回答)

		小学生													
		誰かに相談するほどの悩みではない	家族以外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	誰かに相談したいが、相談できる人が身近にいない	誰かに相談したいが、家族のこのため話しにくい	家族のことを知られたくない	家族に対して偏見をもたれたくない	誰かに相談したいが、家族から他人に相談しないように言われている	誰かに相談したいが、家族に対していやな思いを持たれたくない	相談したいと思わない	相談しても状況が変わるとは思わない	その他	無回答	
全体	(n=1,125)	57.1	4.9	3.6	4.5	3.1	3.6	0.6	5.4	16.7	11.0	9.7	19.9		
世話時間(平日)	3時間未満	(n=337)	67.1	4.7	3.6	4.5	4.2	0.3	6.5	23.1	12.2	9.8	5.6		
	3～7時間未満	(n=278)	73.4	7.9	6.1	5.4	1.4	6.1	13.3	9.4	5.0				
	7時間以上	(n=132)	61.4	6.8	3.8	11.4	0.8	10.6	16.7	12.1	3.8				
世話の大変さ	体力面	(n=104)	65.4	14.4	10.6	15.4	2.9	14.4	16.3	7.7	3.8				
	精神面	(n=113)	57.5	18.6	15.0	22.1	1.8	23.9	18.6	6.2	5.3				
	時間面	(n=118)	56.8	20.3	12.7	17.8	3.4	23.7	19.5	10.2	4.2				
	特に感じていない	(n=588)	68.5	2.7	1.4	1.9	0.2	2.7	11.9	11.7	8.0				
		中学生													
		誰かに相談するほどの悩みではない	家族以外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	誰かに相談したいが、相談できる人が身近にいない	誰かに相談したいが、家族のこのため話しにくい	家族のことを知られたくない	家族に対して偏見をもたれたくない	誰かに相談したいが、家族から他人に相談しないように言われている	誰かに相談したいが、家族に対していやな思いを持たれたくない	相談したいと思わない	相談しても状況が変わるとは思わない	その他	無回答	
全体	(n=1,339)	46.9	7.6	4.6	1.9	2.8	3.1	3.6	1.0	2.7	8.8	8.4	26.4		
世話時間(平日)	3時間未満	(n=506)	65.8	12.5	4.7	2.2	3.2	4.2	1.0	4.0	23.1	10.5	7.1	6.9	
	3～7時間未満	(n=153)	56.2	9.8	7.2	1.3	2.6	3.3	6.5	2.0	3.9	22.2	15.0	7.2	6.5
	7時間以上	(n=49)	51.0	12.2	26.5	12.2	14.3	14.3	10.2	6.1	12.2	24.5	26.5	4.1	6.1
世話の大変さ	体力面	(n=79)	53.2	16.5	20.3	11.4	17.7	17.7	16.5	5.1	16.5	27.8	32.9	3.8	6.3
	精神面	(n=135)	40.7	20.0	24.4	11.1	20.0	17.8	20.0	3.7	19.3	32.6	47.4	1.5	5.2
	時間面	(n=108)	57.4	18.5	17.6	10.2	17.6	14.8	15.7	6.5	13.0	31.5	37.0	1.9	7.4
	特に感じていない	(n=683)	60.3	7.6	1.8	0.7	0.4	1.3	1.6	0.7	1.0	18.7	4.4	9.4	13.5
		高校生													
		誰かに相談するほどの悩みではない	家族以外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	誰かに相談したいが、相談できる人が身近にいない	誰かに相談したいが、家族のこのため話しにくい	家族のことを知られたくない	家族に対して偏見をもたれたくない	誰かに相談したいが、家族から他人に相談しないように言われている	誰かに相談したいが、家族に対していやな思いを持たれたくない	相談したいと思わない	相談しても状況が変わるとは思わない	その他	無回答	
全体	(n=1,125)	46.7	6.9	4.6	2.2	3.3	3.5	3.7	1.0	2.2	14.6	9.7	8.3	24.7	
世話時間(平日)	3時間未満	(n=372)	67.7	6.7	4.3	1.3	3.0	2.2	3.2	0.5	1.6	18.5	10.2	5.4	5.4
	3～7時間未満	(n=142)	55.6	18.3	9.2	2.8	7.0	8.5	9.2	1.4	4.9	21.8	22.5	8.5	4.9
	7時間以上	(n=30)	50.0	16.7	13.3	10.0	13.3	10.0	6.7	3.3	6.7	30.0	13.3	6.7	6.7
世話の大変さ	体力面	(n=71)	38.0	12.7	18.3	7.0	15.5	7.0	18.3	5.6	9.9	19.7	38.0	5.6	9.9
	精神面	(n=129)	48.1	22.5	21.7	10.1	16.3	15.5	20.2	5.4	11.6	21.7	32.6	2.3	4.7
	時間面	(n=103)	43.7	25.2	27.2	11.7	22.3	16.5	20.4	6.8	14.6	17.5	34.0	2.9	3.9
	特に感じていない	(n=578)	60.6	4.5	1.0	0.2	0.9	1.4	1.0	0.3	17.6	6.2	10.7	10.0	

(2) 周囲に求める支援

- 学校や大人にしてもらいたいことは「特にない」の割合が4割を超えて最も高いが、「わからない」との回答も1割前後を占めている。また、小学生では「自由に使える時間がほしい」が2割弱、「話を聞いてほしい」や「勉強をサポートしてほしい」が1割程度と中学生に比べて高くなっている。
- また、相談を希望する場合の相談方法として、相談希望者の5割強は「直接会って」の対面での相談を希望しているが、「電話」も2割前後、中学生では「SNS」も2～3割と多様化している。
- 周囲に求める支援について、家族構成別にみると、ひとり親家庭の高校生では「進路や就職等の将来の相談にのってほしい」や「経済的な援助をしてほしい」が1割と他に比べて高い。
- 世話時間別にみると、全般的に世話時間が長いほど支援ニーズが高く、特に7時間以上の層で「話を聞いてほしい」や「自由に使える時間がほしい」等で顕著に高い。
- 世話の大変さ別にみると、時間面で大変(時間の余裕がない)な児童生徒では「自由に使える時間がほしい」との回答が3～4割と高い。

図 24 学校や大人にしてもらいたいこと(複数回答)

	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分の行っているお世話(ケア)のすべてを代わりにやってくれる人やサービスがほしい	自分の行っているお世話(ケア)の一部を代わりにやってくれる人やサービスがほしい	家族が適切な治療や介護保険サービスを受けられるよう手続きをしてほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい	自分と同一ような状況の人と話を共有する場がほしい	学校の勉強や受験勉強など学習をサポートしてほしい	収入が少ないので経済的な援助(サポート)をしてほしい	その他	特にない	わからない	無回答	
小学生(n=1,584)	9.7	3.0	1.4	3.3	4.2	0.9	17.2	7.1	4.9	3.1	9.1	4.0	1.1	42.9	8.2	21.1
中学生(n=1,830)	7.7	2.5	1.3	1.5	1.6	0.9	7.1	4.9	3.1	5.7	1.8	0.5	47.8	10.4	22.5	
高校生(n=1,630)	8.0	2.3	3.0	2.1	2.3	2.1	7.2	5.6	3.1	5.0	5.6	1.3	40.1	12.6	26.1	

<参考> 全国調査結果

	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分の行っているお世話(ケア)のすべてを代わりにやってくれる人やサービスがほしい	自分の行っているお世話(ケア)の一部を代わりにやってくれる人やサービスがほしい	家族が適切な治療や介護保険サービスを受けられるよう手続きをしてほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい	自分と同一ような状況の人と話を共有する場がほしい	学校の勉強や受験勉強など学習をサポートしてほしい	収入が少ないので経済的な援助(サポート)をしてほしい	その他	特にない	わからない	無回答
小学生(n=631)	11.9	4.6	1.9	3.0	6.5	15.2	15.2	16.3	13.3	5.4	1.3	50.9	6.7	8.1	
中学生(n=319)	12.9	3.1	2.2	3.4	2.5	19.4	17.9	17.3	21.3	9.4	1.6	45.8	9.1	5.3	
高校生(n=307)	16.6	2.9	3.3	2.6	3.6	17.9	17.9	17.3	18.9	14.7	0.7	39.7	6.2	6.5	

図 25 希望する相談方法(複数回答)

	直接会って	電話	SNS	電子メール	その他	無回答
小学生(n=185)	52.4	24.3	11.9	11.9	5.9	11.4
中学生(n=171)	50.3	17.5	22.2	14.0	4.7	14.6
高校生(n=150)	56.7	24.0	34.7	11.3	6.0	6.0

※「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「家族のお世話について相談にのってほしい」を選んだ場合のみ回答

図 26 家族構成別・世話時間別・世話の大変さ別 学校や大人にしてもらいたいこと(複数回答)

		小学生															
		自分の いまの 状況に ついて 話を聞 いてほ しい	家族の お世話 につい て相談 にのっ てほし い	家族の 病気や 障がい、 ケアの ことな どにつ いてわ かりや すく説 明して ほし い	自分 の行っ てい るお世 話(ケア) のすべ てを代 わって くれる 人やサ ービス がほし い	自分 の行っ てい るお世 話(ケア) の一部 を代わ ってく れる人 やサー ビスが ほし い	家族が 適切な 治療 や介護 保険サ ービス を受け られる よう手 続きを してほ しい	自由 に使 える時 間がほ しい	進路や 就職な ど将来 の相談 にのっ てほし い	自分と 同じよ うな状 況の人 と話を して悩 みを共 有する 場がほ しい	学校の 勉強や 受験勉 強など 学習を サポー トして ほし い	収入が 少ない ので経 済的な 援助(サ ポート) をして ほし い	その他	特にな い	わか らない	無回 答	
家族 構成	全体	(n=1,584)	9.7	3.0	1.4	3.3	4.2	17.2			9.1	4.0	1.1	42.9	8.2	21.1	
	二世帯世帯	(n=1,022)	8.4	2.2	1.4	3.2	4.3	17.0			8.2	3.5	1.0	44.6	7.3	21.2	
	三世帯世帯	(n=293)	14.0	5.5	1.0	3.4	4.1	21.5			10.9	3.8	1.0	43.0	9.2	16.4	
	ひとり親家庭	(n=253)	9.5	3.2	1.6	3.6	4.3	13.4			9.9	5.5	1.6	36.4	10.3	26.1	
	世話 時間 (平日)	3時間未満	(n=635)	11.3	3.6	2.0	4.3	5.2	20.9			10.4	4.4	1.1	51.8	8.3	6.5
	3~7時間未満	(n=266)	12.4	3.8	1.5	4.9	6.8	21.8			13.9	4.9	1.9	52.3	6.4	4.5	
	7時間以上	(n=52)	25.0	9.6	3.8	7.7	7.7	34.6			19.2	9.6	1.9	40.4	9.6	1.9	
	世話の 大変さ	体力的面	(n=154)	18.8	8.4	3.9	10.4	13.0	31.2			20.1	7.1	2.6	34.4	7.1	5.8
	精神的面	(n=189)	21.7	10.1	3.7	13.8	13.2	41.3			18.0	9.5	1.6	28.0	11.1	2.6	
	時間面	(n=183)	17.5	9.8	3.3	8.2	12.0	44.3			19.1	12.0	3.8	25.7	10.4	3.3	
特に感じ ていない	(n=687)	8.0	1.0	0.9	2.0	3.5	13.2			7.9	2.5	0.7	64.6	8.0	3.8		

		中学生																
		自分の いまの 状況に ついて 話を聞 いてほ しい	家族の お世話 につい て相談 にのっ てほし い	家族の 病気や 障がい、 ケアの ことな どにつ いてわ かりや すく説 明して ほし い	自分 の行っ てい るお世 話(ケア) のすべ てを代 わって くれる 人やサ ービス がほし い	自分 の行っ てい るお世 話(ケア) の一部 を代わ ってく れる人 やサー ビスが ほし い	家族が 適切な 治療 や介護 保険サ ービス を受け られる よう手 続きを してほ しい	自由 に使 える時 間がほ しい	進路や 就職な ど将来 の相談 にのっ てほし い	自分と 同じよ うな状 況の人 と話を して悩 みを共 有する 場がほ しい	学校の 勉強や 受験勉 強など 学習を サポー トして ほし い	収入が 少ない ので経 済的な 援助(サ ポート) をして ほし い	その他	特にな い	わか らない	無回 答		
家族 構成	全体	(n=1,830)	7.7	2.5	1.3	1.5	1.6	0.9	7.1	4.9	3.1	5.7	1.8	0.5	47.8	10.4	22.5	
	二世帯世帯	(n=1,097)	6.7	1.8	0.9	1.5	1.0	0.5	5.8	4.9	2.6	5.0	1.1	0.5	49.4	10.8	22.6	
	三世帯世帯	(n=375)	9.3	3.5	2.1	0.8	2.4	1.6	8.3	4.5	2.9	6.4	2.1	0.8	44.0	8.8	24.8	
	ひとり親家庭	(n=318)	9.1	3.1	1.9	2.5	2.5	1.6	9.4	5.0	4.7	7.2	4.1	0.0	49.7	10.4	17.0	
	世話 時間 (平日)	3時間未満	(n=654)	9.0	2.9	1.7	2.0	2.3	0.9	9.0	5.4	3.5	6.0	2.6	0.2	61.2	9.6	5.4
	3~7時間未満	(n=220)	15.9	4.1	1.4	4.5	2.7	1.4	14.5	7.3	4.1	11.8	3.2	0.9	48.2	13.2	5.5	
	7時間以上	(n=69)	18.8	13.0	0.0	1.4	1.4	1.4	26.1	13.0	7.2	15.9	5.8	1.4	34.8	15.9	5.8	
	世話の 大変さ	体力的面	(n=125)	18.4	8.8	3.2	2.4	4.8	3.2	29.6	12.0	9.6	16.0	5.6	1.6	30.4	16.0	4.8
	精神的面	(n=227)	21.6	8.8	5.7	6.2	4.8	2.6	27.3	12.3	13.2	18.5	6.6	1.3	26.9	15.9	3.1	
	時間面	(n=171)	17.0	4.1	2.9	8.8	2.9	1.8	34.5	15.2	11.1	18.1	5.8	1.2	31.0	15.8	4.7	
特に感じ ていない	(n=816)	7.4	1.7	0.7	0.7	1.3	0.4	4.0	4.7	1.6	4.5	1.6	0.4	66.3	11.6	6.0		

		高校生																
		自分の いまの 状況に ついて 話を聞 いてほ しい	家族の お世話 につい て相談 にのっ てほし い	家族の 病気や 障がい、 ケアの ことな どにつ いてわ かりや すく説 明して ほし い	自分 の行っ てい るお世 話(ケア) のすべ てを代 わって くれる 人やサ ービス がほし い	自分 の行っ てい るお世 話(ケア) の一部 を代わ ってく れる人 やサー ビスが ほし い	家族が 適切な 治療 や介護 保険サ ービス を受け られる よう手 続きを してほ しい	自由 に使 える時 間がほ しい	進路や 就職な ど将来 の相談 にのっ てほし い	自分と 同じよ うな状 況の人 と話を して悩 みを共 有する 場がほ しい	学校の 勉強や 受験勉 強など 学習を サポー トして ほし い	収入が 少ない ので経 済的な 援助(サ ポート) をして ほし い	その他	特にな い	わか らない	無回 答		
家族 構成	全体	(n=1,630)	8.0	2.3	3.0	2.1	2.3	2.1	7.2	5.6	3.1	5.0	5.6	1.3	40.1	12.6	26.1	
	二世帯世帯	(n=856)	6.9	1.6	2.9	1.8	1.6	1.1	6.4	4.2	2.6	4.4	4.0	1.4	43.6	12.0	27.2	
	三世帯世帯	(n=376)	10.4	3.5	4.3	2.7	3.2	3.7	8.8	5.6	3.7	5.1	4.8	1.1	37.5	15.2	22.3	
	ひとり親家庭	(n=341)	8.8	2.9	2.1	2.3	2.9	2.9	8.5	9.1	3.5	6.5	10.0	1.8	36.4	11.1	25.2	
	世話 時間 (平日)	3時間未満	(n=485)	7.6	1.2	2.5	2.1	1.4	2.1	7.2	5.2	2.9	5.6	5.2	0.8	60.2	14.6	4.9
	3~7時間未満	(n=225)	12.0	4.0	7.6	4.0	4.0	4.0	16.4	9.3	5.8	11.6	10.7	0.9	40.9	15.6	5.8	
	7時間以上	(n=59)	27.1	11.9	8.5	8.5	10.2	6.8	28.8	16.9	11.9	11.9	11.9	8.5	16.9	13.6	1.7	
	世話の 大変さ	体力的面	(n=141)	27.7	13.5	12.8	10.6	9.9	9.9	31.9	16.3	11.3	12.8	14.9	4.3	17.7	12.8	4.3
	精神的面	(n=242)	24.4	7.9	9.9	8.3	7.0	5.8	27.3	13.6	12.0	16.9	18.2	3.3	24.4	15.3	5.4	
	時間面	(n=182)	19.2	8.2	13.7	9.9	11.0	9.3	36.8	15.9	10.4	22.5	20.3	3.3	24.2	11.5	5.5	
特に感じ ていない	(n=688)	4.9	1.5	1.3	1.0	1.3	1.3	2.9	4.4	1.7	2.5	3.9	1.6	62.9	16.3	5.5		

5. ヤングケアラーの自己認識と認知度

(1) ヤングケアラーの自己認識

- 全ての児童生徒に対してヤングケアラーの定義を示したうえで、自分はヤングケアラーにあてはまると思うか、自己認識の状況をたずねたところ、「あてはまる」が2%前後、「わからない」が15%前後と、全国調査とほぼ同様の傾向であった。
- 家族の世話の有無及び世話時間別にみると、世話をしている家族がいる児童生徒では「あてはまる」が1割前後、「わからない」が3～4割となっている。また、これまでの調査結果から世話時間が概ね3時間以上の層では世話の負担が重く、世話による影響や悩みが増加する傾向が見られたが、自分はヤングケアラーに「あてはまる」と回答した割合は2～4割程度に留まり、「わからない」3～5割程度となっている。
- その中でもさらに負担が重いとされる7時間以上の層に着目すると、高校生では「あてはまる」と「わからない」がそれぞれ3割を超えて同程度となっているが、小学生・中学生では「あてはまる」が1～2割に対して「わからない」が5割を超えており、中学生以下の子どもの場合、長時間の世話をしても自分の状況を認識できない人の割合が高いといえる。

図 27 ヤングケアラーの自己認識

	あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答
小学生(n=12,052)	2.4	72.8	15.4	9.4
中学生(n=15,847)	1.9	80.0	16.0	2.0
高校生(n=19,281)	1.9	81.5	14.8	1.8

(%)

<参考>全国調査結果	あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答
中学生(n=5,558)	1.8	85.0	12.5	0.7
高校生(n=7,407)	2.3	80.5	16.3	0.8

※全国の小学生調査は無し
※全国の高校生は「全日制」の結果を引用

図 28 家族の世話の有無・世話時間別 ヤングケアラーの自己認識

		小学生				
		あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答	
児童生徒全体	(n=12,052)	2.4	72.8	15.4	9.4	
世話をしている家族の有無	いない	1.5	83.7	13.7	1.0	
	いる	9.2	41.5	33.8	15.5	
	世話時間(平日)	3時間未満	9.6	44.3	40.2	6.0
	3～7時間未満	19.5	36.5	38.7	5.3	
	7時間以上	13.5	30.8	53.8	1.9	

(%)

		中学生				
		あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答	
児童生徒全体	(n=15,847)	1.9	80.0	16.0	2.0	
世話をしている家族の有無	いない	1.2	84.6	13.4	0.8	
	いる	7.5	45.3	35.7	11.4	
	世話時間(平日)	3時間未満	8.9	45.4	42.4	3.4
	3～7時間未満	18.6	31.8	46.8	2.7	
	7時間以上	20.3	21.7	53.6	4.3	

(%)

		高校生				
		あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答	
児童生徒全体	(n=19,281)	1.9	81.5	14.8	1.8	
世話をしている家族の有無	いない	1.1	85.6	12.6	0.7	
	いる	11.0	36.9	38.3	13.8	
	世話時間(平日)	3時間未満	11.8	41.4	42.9	3.9
	3～7時間未満	24.0	24.0	48.0	4.0	
	7時間以上	37.3	25.4	35.6	1.7	

(%)

(2)ヤングケアラーの認知度

- 「ヤングケアラー」という言葉についての認知度(「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」の合計)は児童生徒全体で4～6割前後となっており、学年が上がるほどヤングケアラーという「言葉」だけでなく、「内容」の認知も高まり、高校生では6割弱が認知している。
- 国は令和4～6年度をヤングケアラー認知度向上の集中取組期間とし、中高生の認知度50%を目標として周知活動を実施していることから、令和2年度実施の全国調査結果を大幅に上回る結果となったものと推察される。
- 認知媒体(知ったきっかけ)では「テレビや新聞、ラジオ」といったマスメディアが6割弱と高く、これに「学校」が4割前後で続いている。また、SNSやインターネットも中高生で2割を超えている。

図 29 ヤングケアラーの認知度

	認知度			聞いたことはない	無回答
	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことはあるが、よく知らない	聞いたことはない		
小学生(n=12,052)	42.5	21.4	21.1	47.7	9.8
中学生(n=15,847)	52.7	28.3	24.5	44.9	2.4
高校生(n=19,281)	57.9	33.5	24.4	39.9	2.2

<参考>全国調査結果

	認知度			聞いたことはない	無回答
	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことはあるが、よく知らない	聞いたことはない		
中学生(n=5,558)	15.2	6.3	8.8	84.2	0.6
高校生(n=7,407)	12.6	5.7	6.9	86.8	0.6

※全国の小学生調査は無し
※全国の高校生は「全日制」の結果を引用

図 30 ヤングケアラーについて知ったきっかけ(複数回答)

	テレビや新聞、ラジオ	雑誌や本	SNSやインターネット	広報やチラシ、掲示物	イベントや交流会など	学校	友人・知人から聞いた	その他	無回答
	小学生(n=5,123)	57.8	5.6	15.4	9.7	0.6	38.1	6.4	5.2
中学生(n=8,363)	56.5	7.9	22.3	8.9	0.9	40.9	5.8	3.7	2.8
高校生(n=11,155)	57.2	6.1	26.7	7.6	1.1	42.8	6.3	2.7	2.1

(3)ヤングケアラー支援窓口等の認知状況や参加意向

- 本県独自の質問として、ヤングケアラー支援に係る相談窓口の認知状況やオンラインサロンへの参加意向をたずねた。
- 児童生徒全体の3割強は、本県におけるヤングケアラーについての主な相談窓口(6種類)のいずれかを認知しているが、主に「学校」が3割と高く、その他はいずれも1割台以下であり、5～6割は「知らない」と回答している。
- 家族の世話の有無及び世話時間別にみると、認知している相談窓口がある人の割合は、家族の世話をしていない児童生徒が3割強であるのに対して、世話をしている児童生徒では2割強に留まっている。ただし、平日の世話時間が3時間以上の層では3～5割程度と高く、特に平日7時間以上世話をしている高校生では学校以外の各相談窓口の認知度が他に比べて高く、それぞれ1～2割前後となっている。

図 31 認知しているヤングケアラー相談窓口(複数回答)

	認知している相談窓口「あり」計							知らない	無回答
	学校	市町村の 児童家庭 相談担当 部署	沖縄県内 に設置す る相談窓 口	心の教育 センター	24時間 子ども SOSダイ ヤル	児童相談 所相談専 用ダイヤ ル			
小学生(n=12,052)	31.9	28.0	3.0	5.9	6.1	11.0	6.8	54.2	13.9
中学生(n=15,847)	34.7	30.8	4.3	6.2	6.4	11.4	6.6	60.1	5.2
高校生(n=19,281)	35.1	30.7	5.6	6.9	5.6	8.9	5.2	60.2	4.7

※認知している相談窓口「あり」計 は全体(100%)-"知らない"「無回答」を除いた比率

<選択肢の詳細(調査時に記載した説明内容)>

学校	担任の先生や保健室の先生、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなど
市町村の児童家庭相談担当部署	相談の内容によって、介護や医療・学校なども連携して対応
沖縄県内に設置する相談窓口	子ども若者みらい相談プラザ「sorae」、親子電話相談窓口など
心の教育センター	困りごとや気持ちの悩みなどに、スクールカウンセラーが対応
24時間子どもSOSダイヤル	心の教育センターの24時間対応の電話相談窓口
児童相談所相談専用ダイヤル	児童相談所の24時間対応の電話相談窓口

図 32 家族の世話の有無・世話時間別 認知しているヤングケアラー相談窓口(複数回答)

		小学生											
		認知している相談窓口「あり」計							知らない	無回答			
		学校	市町村の 児童家庭 相談担当 部署	沖縄県内 に設置す る相談窓 口	心の教育 センター	24時間 子ども SOSダイ ヤル	児童相談 所相談専 用ダイヤ ル						
児童生徒全体		(n=12,052)	31.9	28.0	3.0	5.9	6.1	11.0	6.8	54.2	13.9		
世話をし ている家 族の有無	いない	(n=9,663)	36.3	32.0	3.2	6.7	7.0	12.8	7.8	58.4	5.3		
	いる	(n=1,584)	21.0	17.0	2.9	4.0	3.5	5.4	3.6	55.3	23.7		
		世話 時間 (平日)	3時間未満	(n=635)	22.5	18.4	3.1	4.1	4.1	6.0	3.1	67.7	9.8
		3~7時間未満	(n=266)	30.8	26.3	3.4	4.5	5.3	8.6	6.4	59.0	10.2	
	7時間以上	(n=52)	25.0	11.5	3.8	13.5	5.8	7.7	7.7	67.3	7.7		

※認知している相談窓口「あり」計 は全体(100%)-"知らない"「無回答」を除いた比率

		中学生											
		認知している相談窓口「あり」計							知らない	無回答			
		学校	市町村の 児童家庭 相談担当 部署	沖縄県内 に設置す る相談窓 口	心の教育 センター	24時間 子ども SOSダイ ヤル	児童相談 所相談専 用ダイヤ ル						
児童生徒全体		(n=15,847)	34.7	30.8	4.3	6.2	6.4	11.4	6.6	60.1	5.2		
世話をし ている家 族の有無	いない	(n=14,014)	36.4	32.5	4.5	6.5	6.7	12.1	6.9	60.5	3.1		
	いる	(n=1,830)	21.6	17.4	2.8	3.4	4.0	6.6	4.5	57.5	20.9		
		世話 時間 (平日)	3時間未満	(n=654)	26.3	22.0	3.8	4.6	6.0	9.2	5.5	68.0	5.7
		3~7時間未満	(n=220)	27.3	21.4	4.1	4.5	5.0	5.9	6.4	65.0	7.7	
	7時間以上	(n=69)	30.4	30.4	1.4	1.4	7.2	7.2	8.7	60.9	8.7		

※認知している相談窓口「あり」計 は全体(100%)-"知らない"「無回答」を除いた比率

		高校生											
		認知している相談窓口「あり」計							知らない	無回答			
		学校	市町村の 児童家庭 相談担当 部署	沖縄県内 に設置す る相談窓 口	心の教育 センター	24時間 子ども SOSダイ ヤル	児童相談 所相談専 用ダイヤ ル						
児童生徒全体		(n=19,281)	35.1	30.7	5.6	6.9	5.6	8.9	5.2	60.2	4.7		
世話をし ている家 族の有無	いない	(n=17,639)	36.1	31.7	5.7	7.2	5.8	9.2	5.3	61.1	2.8		
	いる	(n=1,630)	24.8	20.1	5.1	4.1	3.4	5.6	4.4	49.9	25.3		
		世話 時間 (平日)	3時間未満	(n=485)	29.7	26.0	5.4	5.6	4.1	7.0	5.4	63.7	6.6
		3~7時間未満	(n=225)	36.9	31.6	8.0	5.3	4.4	7.6	4.9	54.7	8.4	
	7時間以上	(n=59)	49.1	37.3	20.3	8.5	11.9	13.6	10.2	45.8	5.1		

※認知している相談窓口「あり」計 は全体(100%)-"知らない"「無回答」を除いた比率

- 本県に、ヤングケアラーが気軽に集い、悩みや不安を打ち明けることのできるオンラインサロンがあった場合、参加してみたいかたずねたところ、児童生徒全体で「参加したい」が1割程度、「どちらでもない」が4～5割程度を占めている。
- 家族の世話の有無及び世話時間別にみると、参加意向は、家族の世話をしていない児童生徒が1割強であるのに対して、世話をしている児童生徒では6～8%に留まっている。

図 33 オンラインサロンがあった場合の参加希望

	参加したい	参加したいとは思わない	どちらでもない	無回答
小学生(n=12,052)	11.7	34.0	41.1	13.2
中学生(n=15,847)	10.0	33.8	51.5	4.7
高校生(n=19,281)	9.8	30.8	55.2	4.1

図 34 家族の世話の有無・世話時間別 オンラインサロンがあった場合の参加希望

		小学生				
		参加したい	参加したいとは思わない	どちらでもない	無回答	
児童生徒全体	(n=12,052)	11.7	34.0	41.1	13.2	
世話をしている家族の有無	いない	(n=9,663) 13.3	37.6	44.4	4.7	
	いる	(n=1,584) 7.8	28.3	41.5	22.3	
	世話時間(平日)	3時間未満 (n=635) 8.5	35.1	47.1	9.3	
	3～7時間未満 (n=266) 8.3	36.5	46.2	9.0		
	7時間以上 (n=52) 15.4	25.0	53.8	5.8		

		中学生				
		参加したい	参加したいとは思わない	どちらでもない	無回答	
児童生徒全体	(n=15,847)	10.0	33.8	51.5	4.7	
世話をしている家族の有無	いない	(n=14,014) 10.2	34.4	52.5	2.9	
	いる	(n=1,830) 7.8	29.3	43.7	19.2	
	世話時間(平日)	3時間未満 (n=654) 8.1	36.1	49.8	6.0	
	3～7時間未満 (n=220) 9.1	37.3	49.1	4.5		
	7時間以上 (n=69) 8.7	31.9	52.2	7.2		

		高校生				
		参加したい	参加したいとは思わない	どちらでもない	無回答	
児童生徒全体	(n=19,281)	9.8	30.8	55.2	4.1	
世話をしている家族の有無	いない	(n=17,639) 10.1	31.2	56.3	2.4	
	いる	(n=1,630) 6.1	27.1	44.3	22.5	
	世話時間(平日)	3時間未満 (n=485) 6.6	35.1	53.0	5.4	
	3～7時間未満 (n=225) 9.3	38.7	45.3	6.7		
	7時間以上 (n=59) 8.5	39.0	49.2	3.4		

6. ヤングケアラーへの支援に関する児童生徒の意見(自由回答)

- 児童生徒調査の最後の質問として、全ての児童生徒に対して「ヤングケアラーを支援していくために必要だと思うことやこうしてほしいと思うこと」を自由回答形式でたずねたところ、多くの児童生徒から意見が寄せられた(自由回答に記入した児童生徒数:小学生 4,326 人、中学生 3,668 人、高校生 3,674 人)。
- 意見の内容から14の大まかな分類に分けた結果と分類ごとの代表的・特徴的な意見は以下のとおりであり、小学生では「助け合い・気遣い・思い合い(ボランティア)」と「勉強を教え生活を支援してくれる大人がほしい(物資、ご飯、家事、代行)」といった内容の意見がそれぞれ2~3割台で上位2位にあがっており、中高生に比べて記入割合が高い。
- 一方、中高生では「家庭へ経済的な支援をする(給付金・学費・光熱費など)」が3割弱でそれぞれ第1位にあがっている。また、「ヤングケアラーの理解を深める」が1割以上と小学生に比べて顕著に高くなっている。

図 35 自由回答内容の分類結果と主な意見

※児童生徒からの地涌回答部分である「回答内容」に記入された意見等について、原則、原文を掲載しております。

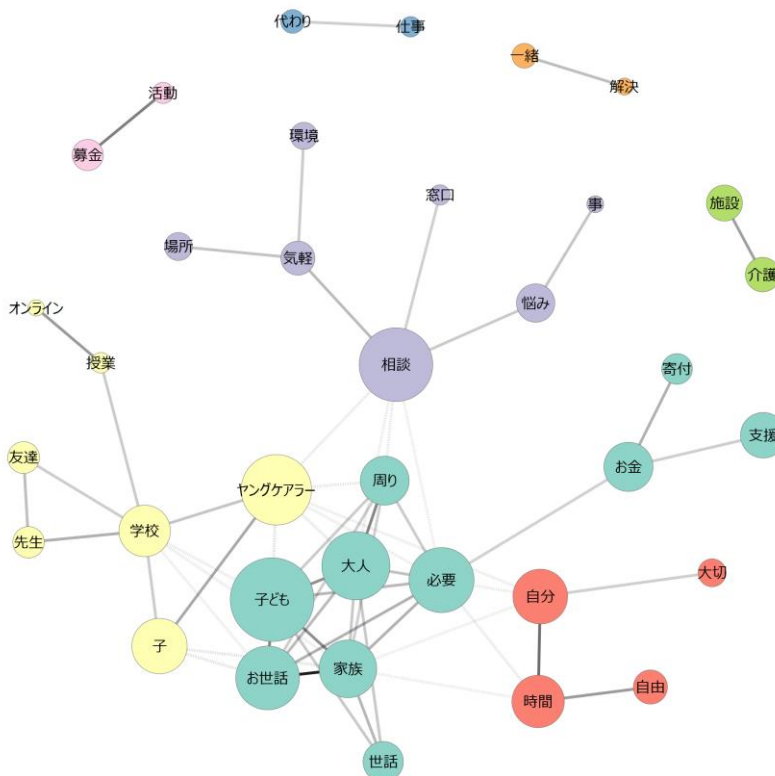
分類	対象	(%)	回答内容
1. 自由な時間がほしい	小学生	2.9	■いつも私が妹にしていることすべてを変わってもらい自分に自由な時間がほしい。(小学生)
	中学生	0.7	
	高校生	1.0	
2. (本人側から)話せる場所と人を作る	小学生	19.2	■先生が否定せずに、親身に聞いてほしい。自分だって、やりたくて、やっているわけではなく、まだ、学生である私たちは、役所に行く。とか、病院に行くとか。車がないので、連れて行くことができない。そんな時に繋がるイベントがほしい。頼れる大人がほしい。(高校生) ■電話相談が多いけど、親とが周りの人に聞かれたくないし相談することも知られたくないのでできればメール、DMで話したい。(中学生)
	中学生	15.2	
	高校生	14.1	
3. (支援側から)周りが気づいて、声をかける	小学生	5.0	■学校の先生や周りの大人が家庭の状況を知ることが大事だと思う。あとは、自分の場合、家族の病院付き添いで学校を早退することが多い。しかし、先生には家庭のこと言えないから「通院しているので早退します。」って言うことが多い。本当は自分自身は通院していないけれど、家族の病院付き添いやらないといけなから、嘘をつかないといけない。また嘘をついたことに対して心が苦しい。(高校生)
	中学生	7.4	
	高校生	7.7	
4. 助けたい・手伝いたい	小学生	7.2	■もし、友達がヤングケアラーだったら勉強を教えたり、自分ができるところをしたりします。(中学生)
	中学生	1.7	
	高校生	1.0	
5. 助け合い・気遣い・思い合い(ボランティア)	小学生	33.0	■将来、福祉での貢献を目指している人が集まる団体(学校やボランティアとか)で、ヤングケアラーをサポートする実習などが増えてもいいと思った(高校生)
	中学生	20.4	
	高校生	16.5	
6. 勉強を教え生活を支援してくれる大人がほしい(物資、ご飯、家事、代行)	小学生	25.6	■誰かに手伝ってもらったり、自分1人の時間を作ってあげることも大切だと思う！ひたすら、看病とかだけだと自分の負担も多くて、学校の授業とかにもついていけなくなるから、学校には行かせてあげられるようにする！(中学生)
	中学生	14.1	
	高校生	12.4	
7. 家庭へ経済的な支援をする(給付金・学費・光熱費など)	小学生	10.1	■経済的支援が1番だと思う。でも、自分が考えている経済的支援は将来返さないといけないやつではなく、返さなくてもいい支援金がいいと思う。(高校生)
	中学生	27.8	
	高校生	27.0	
8. 福祉の支援(介護など)	小学生	8.3	■老人ホーム等の福祉施設に預ける手続きを未成年でもやりやすいように出来る政策を、取って頂きたいです。(高校生)
	中学生	11.8	
	高校生	9.7	
9. 本人の気持ちに寄り添う	小学生	5.1	■保護者や同居者に病気の方などがいた場合、市役所などの方が定期的に訪問して子供から話を聞いたり、子供のメンタルケアをする機会を設ける。(高校生)
	中学生	2.5	
	高校生	1.4	
10. ヤングケアラーの理解を深める	小学生	2.5	■少しでもいいからヤングケアラーは大変だという事を大人や学校の子達にも知って欲しい。(中学生)
	中学生	10.9	
	高校生	14.3	
11. ヤングケアラーの生活状況や不安を知る	小学生	2.9	■ヤングケアラーの人たちは、自分ではヤングケアラーとは思っていないと思うので、小学生とかが家庭訪問するみたいに中学生になっても、家庭訪問みたいなのがあってもいいのかなと思います。(中学生)
	中学生	4.8	
	高校生	3.9	
12. 学校に求めること等	小学生	11.1	■気軽に先生や信頼できる大人に相談することが必要だと思う。(中学生) ■先生が生徒一人一人のことをよく観察し、上辺だけの笑顔ではないかなど、きちんと判断することが大切だと思います。また、学級にひとつの箱を置き、ヤングケアラーの人が困った時はそれで相談すると良いと思います。(中学生)
	中学生	7.4	
	高校生	7.2	
13. わからない	小学生	5.3	■わからない。
	中学生	7.6	
	高校生	6.0	
14. その他	小学生	1.4	■ヤングケアラーとって周りにバレたくない。(高校生) ■あまりヤングケアラーのことはわからないけれど、自分からではなくて、見ていておかしい所や気持ちがあつとも違うときは声をかけて、言いやすくしてほしいです。(中学生)
	中学生	10.6	
	高校生	9.9	

- また、分析の一環として、自由回答に記入された単語(キーワード)の出現頻度や単語同士の関連性等を図(共起ネットワーク図)に整理したところ、小学生では頻出単語としては「子ども」「大人」「お世話」「ヤングケアラー」「相談」といったヤングケアラーから想起される基礎的な単語が中心であった。
- これに対して、中高生になると語彙や知識が豊富になり、社会問題等への関心も高まるため、小学生に見られた基礎的な単語以外にさまざまな単語が出現している。「ヤングケアラー」という単語と「支援」「必要」「お金(金銭)」等との結びつきが強く、さらに高校生では「支援」を起点に「国」「県」「経済」「援助」といった単語への繋がりがみられたり、少ないながらも「サービス」「ヘルパー」「派遣」等の公的支援やサービス利用等に係る単語の出現や繋がりがみられた。

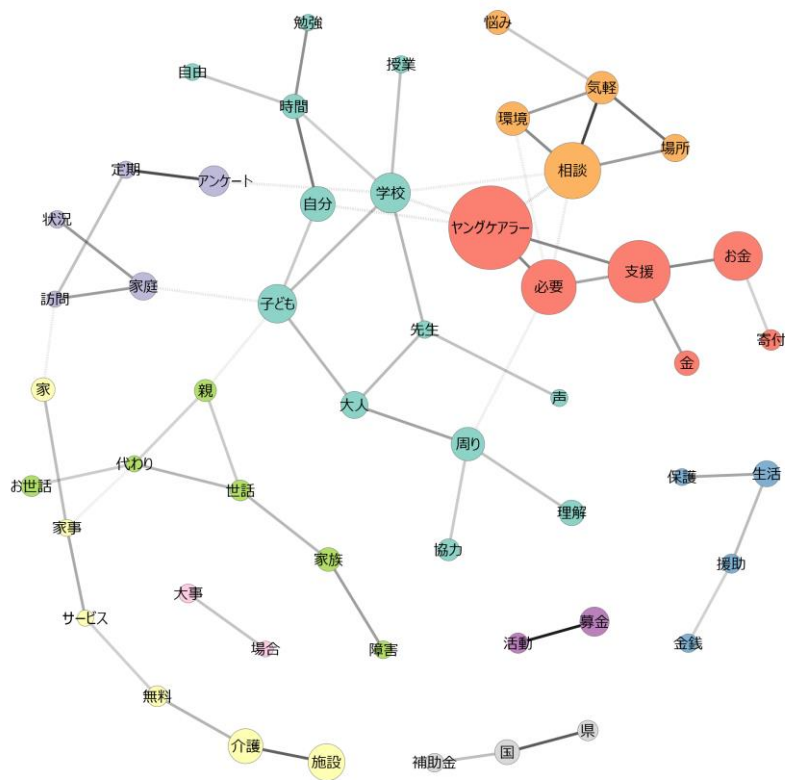
図 36 自由回答に記入された単語[キーワード]の状況(テキストマイニングによる共起ネットワーク)

※出現回数の多い語ほど、大きい円で表示
 ※円の距離が近いほど、その単語同士が近い抽出語彙を示す
 ※円と円を結ぶ線については、共起の強弱を表し、関連が強い語と語を結ぶほど濃くなる
 ※色の違いで分類分けをしているが、配色は意味を持たない。また、小中高校生毎の配色は統一していない

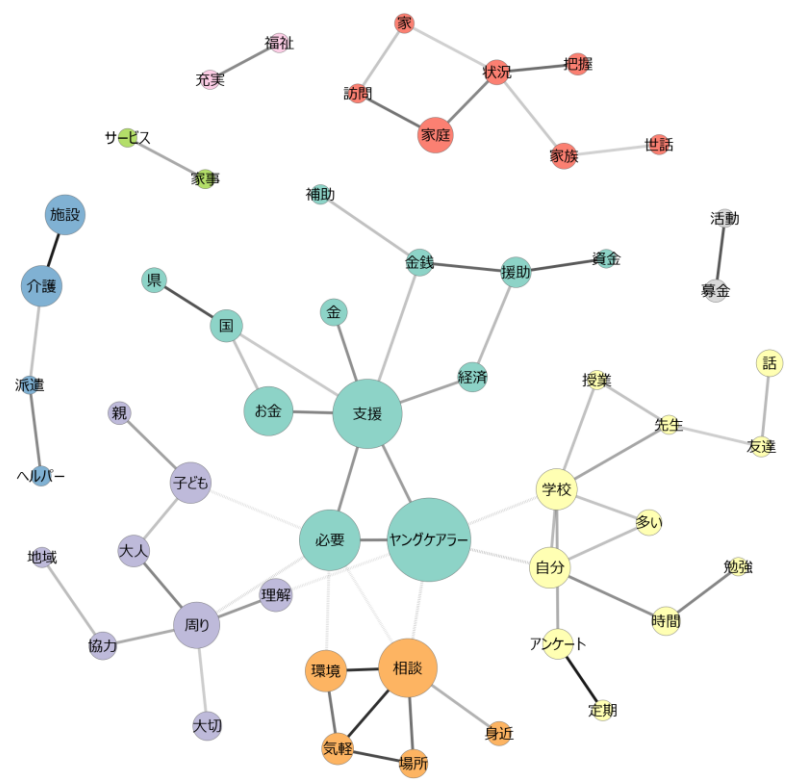
【小学生】



【中学生】



【高校生】



第4部 総括・考察

第2章 一般県民調査

※本章では、「第2部 一般県民調査」に詳述した調査項目から主たる調査項目を抽出し、さらに追加分析を適宜加えつつ、整理を行っている。

1. ヤングケアラーの認知度

- 「ヤングケアラー」という「言葉」についての認知度(「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」の合計)は7割を超えており、このうち「内容」まで認知している人(聞いたことがあり、内容も知っている)も5割を占めている。この割合は令和3年度実施の全国調査結果より高いが、児童生徒調査と同様に、令和4年度以降、国が広報活動に注力していることも認知度の高さに影響していると考えられる。
- 認知度は属性別に差が見られ、男性より女性で、年代で50代で、また、子どもがいる人で他に比べて認知度が高い。

図 1 ヤングケアラーの認知度

(%)

	認知度			聞いたことはない
		聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことはあるが、よく知らない	
沖縄県(n=500)	75.8	49.8	26.0	24.2
全国調査(n=2,400)	52.1	29.8	22.3	48.0

(%)

			認知度			
				聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことはあるが、よく知らない	聞いたことはない
全体		(n=500)	75.8	49.8	26.0	24.2
性別	男性	(n=250)	70.8	41.2	29.6	29.2
	女性	(n=250)	80.8	58.4	22.4	19.2
年代	20代	(n=100)	73.0	45.0	28.0	27.0
	30代	(n=100)	68.0	39.0	29.0	32.0
	40代	(n=100)	72.0	49.0	23.0	28.0
	50代	(n=100)	87.0	67.0	20.0	13.0
	60代以上	(n=100)	79.0	49.0	30.0	21.0
子どもの有無	高校生以下の子あり	(n=105)	81.9	59.0	22.9	18.1
	大学生・社会人等の子のみ	(n=119)	81.5	59.7	21.8	18.5
	いない	(n=276)	71.0	42.0	29.0	29.0

2. ヤングケアラーへの関わり

(1) 周囲でのヤングケアラーと思われる子どもの認知状況

- 家族・親族にヤングケアラーと思われる子が「いる」と回答した人が全体 3.6%、また、家族・親族にはいない人のうち、友人・知人や子どものクラスメイト等に「いる」と回答した人が7.1%であった。
- いずれも全国調査結果より高くなっており、前述の認知度の高さの影響も考えられる。

図 2 家族・親族、その他周辺でのヤングケアラーと思われる子の有無

			家族・親族に			【家族・親族に「いない」場合】 友人・知人、子どものクラスメイト等に			
			いる	いない	わからない	いる	いない	わからない	
沖縄県(n=500)			3.6	77.4	19.0	(n=482)	7.1	48.1	44.8
全国調査(n=2,400)			1.8	82.3	15.9	(n=2,357)	2.0	64.2	33.8

			家族・親族に			【家族・親族に「いない」場合】 友人・知人、子どものクラスメイト等に			
			いる	いない	わからない	いる	いない	わからない	
全体 (n=500)			3.6	77.4	19.0	(n=482)	7.1	48.1	44.8
性別	男性 (n=250)		4.8	73.6	21.6	(n=238)	3.8	48.3	47.9
	女性 (n=250)		2.4	81.2	16.4	(n=244)	10.2	48.0	41.8
年代	20代 (n=100)		5.0	75.0	20.0	(n=95)	6.3	63.2	30.5
	30代 (n=100)		5.0	71.0	24.0	(n=95)	6.3	43.2	50.5
	40代 (n=100)		2.0	78.0	20.0	(n=98)	12.2	46.9	40.8
	50代 (n=100)		4.0	81.0	15.0	(n=96)	5.2	41.7	53.1
	60代以上 (n=100)		2.0	82.0	16.0	(n=98)	5.1	45.9	49.0
子どもの有無	高校生以下の子あり (n=105)		6.7	71.4	21.9	(n=98)	7.1	42.9	50.0
	大学生・社会人等の子のみ (n=119)		1.7	82.4	16.0	(n=117)	5.1	45.3	49.6
	いない (n=276)		3.3	77.5	19.2	(n=267)	7.9	51.3	40.8

(2)ヤングケアラーと思われる子への対応

- 仮に周囲にヤングケアラーと思われる子がいた場合の対応では「本人に様子を聞く」の割合が4割弱と最も高く、次いで「関係機関に相談する」が3割強、「わからない」が3割となっている。全国調査結果と比べると「何もしない」や「わからない」の割合が低く、その他の積極的な対応をするとの回答割合が高くなっている。属性別では、これらの積極的な関わりをするのは男性より女性で、また、子どものいる人で高い。
- 「何もしない」と回答した理由では、「家庭の問題に関わることへの抵抗感」や「相談する余裕がない」、「どのように対応したらよいかわからない」といった回答がそれぞれ2～3割となっている。全国調査結果と比べると「家族が世話をするのは当たり前」や「その他」の割合がやや高くなっている。

図 3 ヤングケアラーと思われる子がいた場合の対応(複数回答)、何も対応しない理由

		対応 (%)						何も対応しない理由 (%)				
		関係機関に相談する	家族、知人、友人に相談する	本人に様子を聞く	何もしない	わからない	その他	どのように対応したらよいかわからないため	家庭の問題に関わることに抵抗感があるため	家族が家族の世話をすることは当たり前であるため	相談する余裕がないため	その他
沖縄県(n=482)		32.6	24.3	36.3	10.4	30.5	0.4	24.0	28.0	12.0	26.0	10.0
全国調査(n=2,357)		22.1	17.1	23.3	16.2	39.9	0.5	30.6	29.1	9.9	27.7	2.6

		対応 (%)						何も対応しない理由 (%)				
		関係機関に相談する	家族、知人、友人に相談する	本人に様子を聞く	何もしない	わからない	その他	どのように対応したらよいかわからないため	家庭の問題に関わることに抵抗感があるため	家族が家族の世話をすることは当たり前であるため	相談する余裕がないため	その他
全体 (n=482)		32.6	24.3	36.3	10.4	30.5	0.4	24.0	28.0	12.0	26.0	10.0
性別	男性 (n=238)	30.7	21.4	30.3	12.6	34.0	0.4	26.7	33.3	6.7	20.0	13.3
	女性 (n=244)	34.4	27.0	42.2	8.2	27.0	0.4	20.0	20.0	20.0	35.0	5.0
年代	20代 (n=95)	28.4	24.2	44.2	9.5	28.4	0.0	33.3	11.1	22.2	22.2	11.1
	30代 (n=95)	22.1	14.7	35.8	14.7	31.6	0.0	14.3	28.6	14.3	35.7	7.1
	40代 (n=98)	26.5	27.6	32.7	10.2	30.6	1.0	20.0	40.0	0.0	20.0	20.0
	50代 (n=96)	39.6	24.0	36.5	9.4	29.2	1.0	22.2	33.3	11.1	22.2	11.1
	60代以上 (n=98)	45.9	30.6	32.7	8.2	32.7	0.0	37.5	25.0	12.5	25.0	0.0
子どもの有無	高校生以下の子あり (n=98)	34.7	29.6	35.7	7.1	22.4	2.0	14.3	14.3	28.6	28.6	14.3
	大学生・社会人等の子のみ (n=117)	44.4	31.6	31.6	6.0	30.8	0.0	28.6	42.9	14.3	14.3	0.0
	いない (n=267)	26.6	19.1	38.6	13.5	33.3	0.0	25.0	27.8	8.3	27.8	11.1

※家族・親族にヤングケアラーと思われる子が「いない」「わからない」と回答した者のみが回答。

3. ヤングケアラーに対する相談体制

(1) ヤングケアラーに関する相談先

- 仮に周囲にヤングケアラーと思われる子がいた場合の対応として「関係機関に相談する」と回答した人が想定している相談機関は「児童相談所など」と「福祉事務所など」といった子どもや福祉に関する行政の相談機関が5割を超えて高く、次いで「学校や教育委員会」と「民生委員・児童委員」が4割前後で続いている。
- 全国調査結果に比べて「学校・教育委員会」や「福祉事務所など」を相談先として想起する人の割合が高くなっている。

図 4 ヤングケアラーに関する相談機関(複数回答)

	学校や教育委員会	民生委員・児童委員	児童相談所などの子どもに関する行政の相談機関	保健所などの健康・衛生に関する行政の相談機関	福祉事務所などの社会福祉に関する行政の相談機関	病院や介護事業所などの医療・介護関係機関	フリースクール・子ども食堂などの民間団体	警察	わからない	その他
沖縄県(n=157)	42.7	38.9	54.8	24.2	53.5	7.0	8.9	3.2	5.7	0.6
全国調査(n=521)	36.5	44.5	55.5	21.3	48.0	8.6	7.3	5.6	5.8	0.6

		学校や教育委員会	民生委員・児童委員	児童相談所などの子どもに関する行政の相談機関	保健所などの健康・衛生に関する行政の相談機関	福祉事務所などの社会福祉に関する行政の相談機関	病院や介護事業所などの医療・介護関係機関	フリースクール・子ども食堂などの民間団体	警察	わからない	その他
全体		(n=157) 42.7	38.9	54.8	24.2	53.5	7.0	8.9	3.2	5.7	0.6
性別	男性	(n=73) 45.2	38.4	56.2	19.2	50.7	6.8	8.2	2.7	5.5	0.0
	女性	(n=84) 40.5	39.3	53.6	28.6	56.0	7.1	9.5	3.6	6.0	1.2
年代	20代	(n=27) 40.7	33.3	44.4	37.0	44.4	22.2	11.1	3.7	14.8	0.0
	30代	(n=21) 61.9	23.8	47.6	23.8	28.6	4.8	9.5	4.8	0.0	0.0
	40代	(n=26) 34.6	42.3	65.4	38.5	50.0	3.8	11.5	0.0	7.7	0.0
	50代	(n=38) 42.1	34.2	60.5	18.4	52.6	2.6	2.6	2.6	7.9	2.6
60代以上		(n=45) 40.0	51.1	53.3	13.3	73.3	4.4	11.1	4.4	0.0	0.0
子どもの有無	高校生以下の子あり	(n=34) 44.1	29.4	52.9	20.6	26.5	8.8	5.9	2.9	14.7	0.0
	大学生・社会人等の子のみ	(n=52) 42.3	44.2	61.5	15.4	55.8	0.0	7.7	3.8	1.9	0.0
	いない	(n=71) 42.3	39.4	50.7	32.4	64.8	11.3	11.3	2.8	4.2	1.4

(2)相談しやすい環境づくり

- ヤングケアラーと思われる子がいる場合、どのような仕組みや取組があると相談しやすい環境づくりにつながると思うか、調査対象者全員にたずねたところ、「ヤングケアラー専用の相談窓口があること」の割合が5割を超えて最も高く、次いで「電話・メール・SNSでの相談が可能であること」と「24時間いつでも相談が可能であること」が4割で続いている。
- 全項目で全国調査結果を上回っており、一般県民のヤングケアラーに対する関心度や相談支援体制の充実を求める意識が強いことがうかがえる。
- 属性別にみると、全般的に男性より女性のほうが割合が高いが、特に「24時間いつでも相談が可能であること」「相談する際の手順や判断基準がわかりやすいこと」「相談がどのような支援につながるかがわかりやすいこと」については女性が男性を10ポイント以上上回っており、女性の重視度が高い。

図5 ヤングケアラーについて相談しやすい環境づくりにつながるとと思われる仕組みや取組(複数回答)

		「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること	学校に相談窓口があること	自治体の役所等の行政機関に相談窓口があること	(学校、行政機関以外の)専門機関に相談窓口があること	対面での相談が可能であること	電話・メール・SNSでの相談が可能であること	24時間いつでも相談が可能であること	相談する際の手順や判断基準がわかりやすいこと	相談がどのような支援につながるかがわかりやすいこと	「ヤングケアラー」の支援に関する法律や条例があること	その他	特にあてはまるものはない
		(%)											
沖縄県(n=500)		54.6	36.2	34.0	19.4	17.2	40.6	39.2	33.6	36.2	25.2	0.4	20.2
全国調査(n=2,400)		40.9	26.2	27.0	13.8	12.0	25.4	24.9	21.3	21.7	14.9	0.5	32.7
		(%)											
		「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること	学校に相談窓口があること	自治体の役所等の行政機関に相談窓口があること	(学校、行政機関以外の)専門機関に相談窓口があること	対面での相談が可能であること	電話・メール・SNSでの相談が可能であること	24時間いつでも相談が可能であること	相談する際の手順や判断基準がわかりやすいこと	相談がどのような支援につながるかがわかりやすいこと	「ヤングケアラー」の支援に関する法律や条例があること	その他	特にあてはまるものはない
全体 (n=500)		54.6	36.2	34.0	19.4	17.2	40.6	39.2	33.6	36.2	25.2	0.4	20.2
性別	男性 (n=250)	50.8	35.2	33.6	19.6	18.0	36.8	33.2	27.6	30.0	21.6	0.0	25.6
	女性 (n=250)	58.4	37.2	34.4	19.2	16.4	44.4	45.2	39.6	42.4	28.8	0.8	14.8
年代	20代 (n=100)	45.0	34.0	22.0	12.0	15.0	37.0	35.0	26.0	35.0	18.0	0.0	25.0
	30代 (n=100)	50.0	36.0	30.0	18.0	22.0	40.0	43.0	38.0	35.0	30.0	1.0	19.0
	40代 (n=100)	60.0	39.0	32.0	19.0	12.0	39.0	36.0	25.0	29.0	19.0	1.0	21.0
	50代 (n=100)	61.0	36.0	40.0	26.0	19.0	48.0	41.0	38.0	37.0	29.0	0.0	16.0
	60代以上 (n=100)	57.0	36.0	46.0	22.0	18.0	39.0	41.0	41.0	45.0	30.0	0.0	20.0
子どもの有無	高校生以下の子あり (n=105)	51.4	39.0	24.8	18.1	11.4	36.2	37.1	26.7	31.4	17.1	1.0	17.1
	大学生・社会人等の子のみ (n=119)	60.5	37.0	47.1	21.8	16.0	41.2	40.3	41.2	31.9	0.0	17.6	
いない (n=276)		53.3	34.8	31.9	18.8	19.9	42.0	39.5	33.3	35.9	25.4	0.4	22.5

第4部 総括・考察

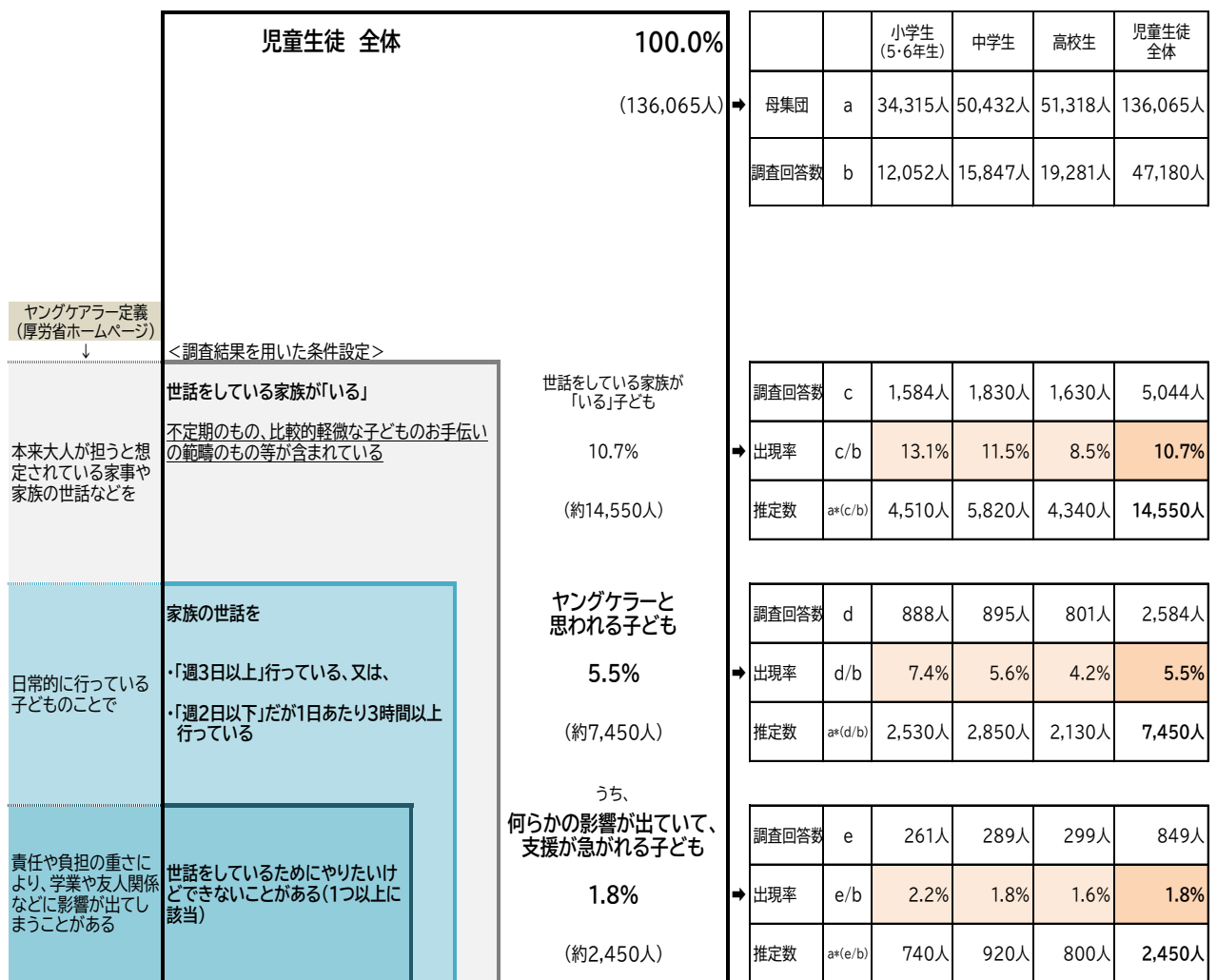
第3章 考察

1. ヤングケアラーと思われる子どもの人数(推定)

本調査で児童生徒本人から得た家族に対する世話の状況やその影響等に関する情報をもとに、ヤングケアラーと思われる子ども(児童生徒)の人数の推定を行った。

国のヤングケアラーの定義を考慮しつつ、調査結果をもとに、下記の条件設定で推定を行ったところ、日常的に家族の世話をを行っている「ヤングケアラーと思われる子ども」は児童生徒全体の 5.5%(約 7,450 人)、中でも家族の世話により日常生活に影響がでて「何らかの影響が出ていて、支援が急がれる子ども」は 1.8%(約 2,450 人)となった。

図 1 調査結果に基づくヤングケアラーと思われる子どもの人数(推定)



※上記の条件設定はあくまで調査結果に基づく推定による設定であり、支援の対象を限定するものではない。
 ※推定数算出においては端数処理等を行っているため、児童生徒全体の人数に割合(%)を乗じた数値とは一致しません。
 ※今回の調査の対象は小学5年生～高校3年生であったため、上記の推定数も小学5年生～高校3年生の児童生徒に関する推定数である。

2. ヤングケアラーに係る現状と課題等の考察

(1) 家族の世話の実態と学校生活等への影響

今回の児童生徒調査で世話をしている家族がいると回答した児童生徒は全体の1割程度おり、全国調査結果(4~7%程度)よりも高い比率となった。

全国調査報告書(令和3年度実施分)では、世話をしている家族がいる児童生徒=ヤングケアラーではなく、いわゆる「ケア」を要するほどの家族がいる訳ではない人や大人が担うようなケア責任を引き受けているとまでは言えない、いわば子どもが行う範囲内の「お手伝い」として家事や家族の世話をしている人が一定数含まれることが留意点として示されているが、本県では県下の小学5年生から高校3年生までの全ての児童生徒を対象とした悉皆調査としたことにより、全国調査では把握しきれなかった、負担が軽い層からも積極的な回答を得ることができ、結果として世話をしている家族が「いる」と回答した児童生徒の割合が高くなった可能性も考えられる。

このような状況も考慮しつつ、世話をしている家族がいる児童生徒の状況をみると、世話の対象は母親が5割前後、父親が3割前後と、「父母」の割合が全国調査の2倍近くと極めて高いという特徴的な傾向が見られた。本県におけるひとり親家庭の多さ等も背景にあるものと推察される。

また、世話の頻度や時間といった、世話による負担の状況も多様であるが、世話をしている家族がいる児童生徒の4~5割は週3日以上と日常的に世話をしている。世話に費やす時間が3時間以上に及ぶ層は平日で1~2割程度、休日で2~3割程度となっており、このうち、7時間以上の層も平日で3%程度、休日では1割程度を占めるなど、世話による拘束時間が長い児童生徒が一定数存在することが確認された。

家族の世話を行うこと、特に日常的に長時間の世話を行うことは、児童生徒の生活に大きく影響しており、健康状態や学校の出欠、遅刻早退をはじめとした学校生活等について課題や悩みを抱える割合が高いこと、また、中高生の進路希望に関しても少なからず影響している状況が把握された。このことは子ども自身がやりたいことができないなど、子どもの「育つ権利」が守られていない状況と考えられる。

このため、重い負担を担う児童生徒を的確に把握し、学校生活等に支障がでないよう、継続的な支援を行うことが重要であると考えられる。その際、子ども自身だけでなく、家族等を含めた世帯支援の視点で取り組むことが重要であり、そのために福祉や教育、保健・医療等をはじめとした多分野での連携が不可欠であると考える。

(2) ヤングケアラーであることや世話の負担に対する自認状況

上記のように、家族の世話の負担が重い層では学校生活等に明らかな影響があるが、世話をしているためにやりたいことができないと感じていたり、体力面・精神面・時間面で世話の大変さを実感していると回答したのは世話をしている児童生徒の2割程度に留まり、長時間の世話をしている層も含め、世話による負担や影響を十分に自覚できていない懸念がある。

また、ヤングケアラーとしての自己認識(ヤングケアラーの定義を示したうえで自分はあてはまると思うか)を問うたところ、ヤングケアラーに「あてはまる」との回答は、世話をしていない児童生徒も含めた児童生徒全体で2%程度と全国調査結果と同水準であったが、家族の世話をしている児童生徒でも1割前後、うち長時間の世話をしている層においても2~4割程度に留まり、「わからない」との回答が3~5割程度であった。7時間以上の長時間の世話をしている層でも小・中学生において「わからない」が5割を超えるなど、自分の状況を客観視することの難しさがうかがえる。

学校等を通じて「ヤングケアラー」に関してさらなる周知を図るとともに、このような児童生徒の自覚の状況を踏まえ、学校や地域関係者等が児童生徒の世話の状況や負担感を客観的に把握し、声かけや専門機関へつなぐことができる取組を進めていく必要がある。

(3) ヤングケアラーの支援ニーズへの対応

家族の世話をしている児童生徒が学校や周囲の大人に望む支援については「特にない」「わからない」との回答が5～6割程度を占めているが、「自由に使える時間が欲しい」「話を聞いてほしい」「勉強をサポートしてほしい」等のニーズがそれぞれ1～2割程度と一定数見られた。特に小学生では自由時間の確保を求める人が2割弱と中高生に比べて突出して高く、低年齢で家族の世話を担う児童生徒の時間的な負担感の高さがうかがえる結果となった。また、児童生徒の自由回答においても、ヤングケアラーへの支援として、周囲からの気遣いや勉強サポート等の学習支援、家庭に対する経済的な支援が必要といった意見が寄せられている。

「話を聞いてほしい」を含めた相談意向がある児童生徒が希望する相談方法では直接会う対面形式の希望が5割強と高いが、電話やSNSの希望もそれぞれ2～3割程度ある。また、ヤングケアラー支援の一環として実施を検討している「オンラインサロン」については、家族の世話をしている児童生徒の1割弱は参加を希望していることから、多様な相談形態の充実が望まれている。

なお、家族の世話の有無に関わらず児童生徒が現在認知しているヤングケアラー関連の相談窓口では「学校」が3割と最も高く、これに対して、その他の相談窓口（市町村や県等の相談機関や電話相談等）はいずれも1割台以下に留まる結果となった。学校については、日々児童生徒が長い時間を過ごし、教員を始めとした信頼できる大人が身近にいる場であることから、ヤングケアラーに関しても初期の相談窓口として児童生徒から期待されているものと推察される。

一方、学校以外の相談窓口については、前述のとおり、家族の世話をしている児童生徒が多様な相談の選択肢を希望する中、まだ十分に認知されているとは言い難い状況であることから、窓口としてのさらなる周知に努めるとともに、子どもと接する時間が長い学校と相談支援の専門知識を有するその他の相談窓口が連携して相談事を抱える児童生徒を適切に把握し、相談支援につなげる取組を充実させることが必要である。

(4) ヤングケアラーに関する認知向上と周囲の支援意識の醸成

「ヤングケアラー」という言葉の認知度は、児童生徒全体で4～6割前後、一般県民では7割強と全国調査結果に比べて高い。全国調査（令和2・3年度実施）後、国は令和4～6年度を認知度向上の集中取組期間として周知活動を行っており、本県での認知度の高さは国の周知活動の成果であるとも考えられる。

一般県民については、このような認知度の高さを背景に、周囲にヤングケアラーがいた場合に、本人に様子を聞いたり、関係機関に相談するなどの積極的な対応をしたいと考える層が全国調査結果を上回った。また、自由回答においても、ヤングケアラーへの支援として、政策等による社会的な支援はもとより、気軽な相談先（話せる場・人）の確保や周囲からの積極的な声掛けといった、身近な地域での支援が必要といった意見が寄せられている。

このようにヤングケアラーに関心を持つ層を具体的な相談・支援の取組につなげるための仕組みとしては、ヤングケアラー専用の相談窓口や電話・メール・SNS等の相談窓口、これらの窓口の24時間対応等が要望として高いほか、相談する際の手順や判断基準、相談から支援までの流れをわかりやすく周知することが求められており、これらのニーズに対応できるよう相談体制を強化することにより、県民や地域関係者がヤングケアラーに関心を持ち、安心して相談・支援につなぐことができる環境の充実を図ることが重要である。

(5) 児童生徒調査の成果と課題

考察の終わりに、本県初のヤングケアラーに関する大規模な実態調査として実施した児童生徒調査について成果と課題を整理する。

本県では今回、児童生徒調査を悉皆調査とし、特別支援学校や高校の定時制・通信制等を含む、県内の全ての国公立学校に通う小学5年生から高校3年生の児童生徒全員に対して、学校を通じて調査協力依頼文を配布し、国が推奨するオンライン調査形式で調査を実施した(筆記回答希望者のために別途紙媒体調査票も準備)。協力依頼文にはヤングケアラーに関する県下の相談窓口の情報も掲載しており、今回の調査そのものが、約13万6千人の児童生徒に対するヤングケアラーの周知機会となったものとする。

調査の実施にあたっては、家族や家庭内の様子といったデリケートな内容を問う調査であることを考慮し、回答を必須としない任意回答形式で実施したが、最終的に児童生徒 47,180 人から有効な回答を得ることができた(回収率 40.6%、うち有効回収率 34.7%)。調査の位置づけや調査手法等が異なるため、一概に比較はできないが、全国調査(令和2・3年度実施、中高生対象オンライン調査)の回収率が10%以下と推測されることを踏まえると、任意回答形式にもかかわらず、4万人を超える多数の児童生徒から貴重な回答を得られたことは初の実態調査として一定意義のある調査であったと考える。

ただし、一方で回答協力を得られなかった児童生徒が約6割おり、無回答・非協力の理由を含め、これらの児童生徒の実態や意向が今回の調査では把握できなかったことにも留意しつつ、調査結果を活用する必要がある。